

令和6年度
「伊丹市まちづくり基本条例」の
見直し検討に関する市民アンケート
報告書



伊丹市マスコット たみまる

令和7（2025）年3月
伊丹市

目次

I アンケートの概要	1
1 アンケートの目的	1
2 調査の設計	1
3 回収状況	1
4 調査結果の見方	2
II 調査結果（基本分析）	3
1 回答者の属性	3
2 「まちづくり基本条例」について	4
3 「参画」を進めるために	8
4 「市民活動」を進めるために	20
5 「協働」を進めるために	31
6 「熟議」を進めるために	35
III 集計結果（設問間クロス集計）	37
IV 送付物	40

I アンケートの概要

1 アンケートの目的

伊丹市では、市民会議からの提言を受けて、力強い市民自治のまちを目指し、平成 15 (2003) 年に「伊丹市まちづくり基本条例 (以下、「条例」)」を制定しました。

この条例は、4 年以内ごとに見直しを行うこととしており、令和 6 年度に見直し検討を実施します。

そこで、条例の目的である「参画と協働によるまちづくり」の進捗度を多様な視点により確認し、まちづくり基本条例見直しの必要性について検証するとともに、同条例に基づき実施している各種制度の課題解決を図ることを目的として市民アンケートを実施しました。

2 調査の設計

(1) 対象者

伊丹市内在住の満 18 歳以上の市民約 3,000 人を無作為抽出

(2) 調査期間

令和 6 (2024) 年 8 月 19 日から令和 6 年 9 月 19 日まで

(3) 調査方法

市民アンケート依頼を郵送で送付し、回答は郵送又はWEB方式

3 回収状況

回収状況

配付数	有効回答数	有効回答率
3,171 件	1,392 件 うちWEBによる回答 390 件(28%)、 郵送での回答 1002 件(72%)	43.9%

4 調査結果の見方

- (1) 図表のn (number of case) は、設問に対する回答者数を表しています。
- (2) 回答結果の割合「%」は、有効サンプル数に対して、回答数の総数を母数として、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。また、複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- (3) 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていないものです。
- (4) 経年比較を行っている設問において、構成比欄に「—」が記載されている場合、該当年度では記載の選択肢が存在せず、構成比が掲載されている年度から新設された選択肢を意味します。
- (5) 設問や選択肢を変更している設問については、経年比較を行っていません。一部の選択肢を分かりやすく記載し直した設問については、注釈を記載した上で経年比較を行っています。

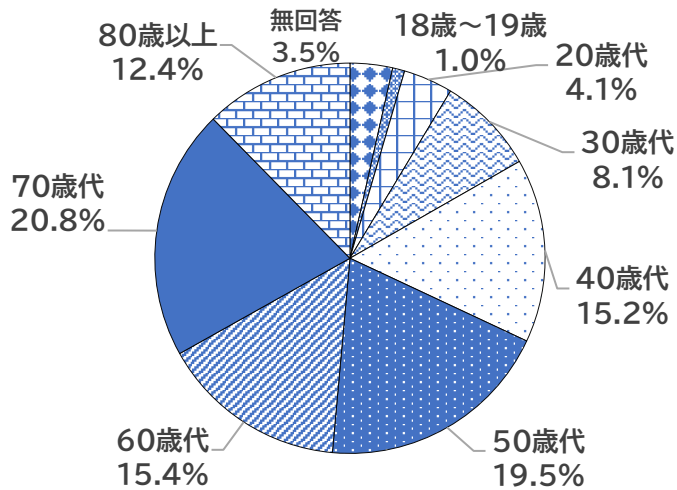
Ⅱ 調査結果（基本分析）

1 回答者の属性

（1）年齢

問2 あなたの年齢をお答えください。（○は1つ）

年齢については、「70歳代」が20.8%で最も高く、次いで「50歳代」が19.5%、「60歳代」が15.4%、40歳代が15.2%と続いています。

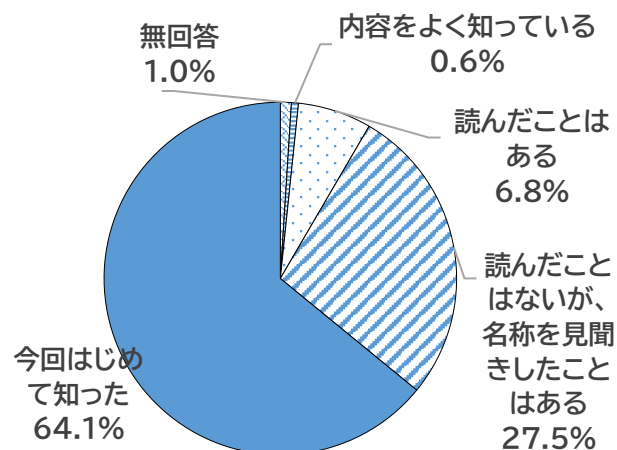


無回答	49人
18歳~19歳	14人
20歳代	57人
30歳代	113人
40歳代	212人
50歳代	271人
60歳代	215人
70歳代	289人
80歳以上	172人
総数	1392人

2 「まちづくり基本条例」について

問1 「まちづくり基本条例」を知っていますか。(○は1つ)

条例の認知度については、「今回はじめて知った」が64.1%で最も高く、次いで「読んだことはないが、名称を見聞きしたことはある」が27.5%でした。

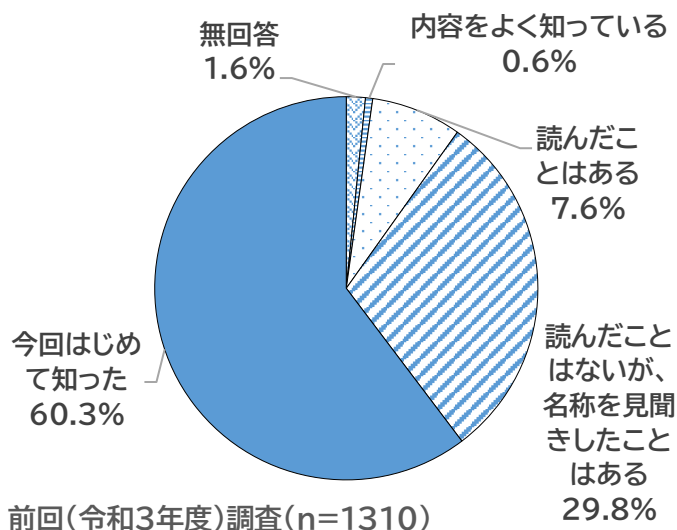


今回調査
(n=1392)

無回答	14人	1.0%
内容をよく知っている	9人	0.6%
読んだことはある	94人	6.8%
読んだことはないが、 名称を見聞きしたことはある	383人	27.5%
今回はじめて知った	892人	64.1%
総数	1392人	

今回(令和6年度)調査(n=1392)

令和3年度(2021年度)調査と比較すると、「今回はじめて知った」(64.1%)が3.8ポイント増加し、「読んだことはないが、名称を見聞きしたことはある」(27.5%)が2.3ポイント減少しています。



年代別で見ると、すべての年代で「今回はじめて知った」の割合が最も高く、次いで「読んだことはないが、名称を見聞きしたことはある」の割合が高くなっています。また、30歳以上の年代では「読んだことはないが、名称を見聞きしたことはある」と「読んだことはある」を合わせた割合が、年代が上がるにつれて高くなっています。

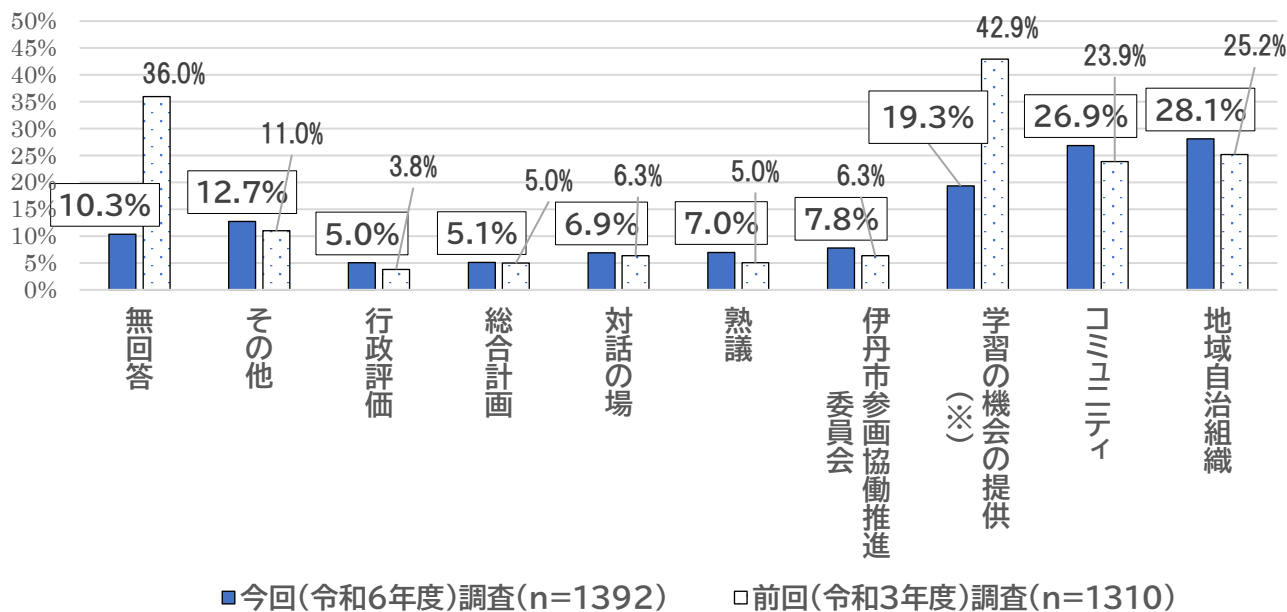
(%)

	無回答	内容をよく知っている	読んだことはある	読んだことはないが、名称を見聞きしたことはある	今回はじめて知った	回答者数
18歳～19歳	0.0	0.0	0.0	14.3	85.7	14人
20歳代	0.0	0.0	0.0	28.1	71.9	57人
30歳代	0.0	0.0	2.7	14.2	83.2	113人
40歳代	0.9	0.5	5.7	22.6	70.3	212人
50歳代	0.4	0.7	3.7	26.6	68.6	271人
60歳代	0.5	0.5	8.8	25.6	64.7	215人
70歳代	1.4	0.7	7.6	34.9	55.4	289人
80歳以上	2.9	1.2	14.0	34.9	47.1	172人
無回答	2.0	2.0	8.2	26.5	61.2	49人
合計	1.0	0.6	6.8	27.5	64.1	1392人

1位	2位	3位
----	----	----

問2 「まちづくり基本条例」の内容で知っているものはどれですか。(〇はいくつでも)

条例の内容の認知度については、「地域自治組織」が28.1%で最も高く、次いで「コミュニティ」が26.9%、「学習の機会の提供」が19.3%と続いています。



	今回調査 (n=1392)		前回調査 (n=1310)	
無回答	144人	10.3%	471人	36.0%
その他	177人	12.7%	144人	11.0%
行政評価	70人	5.0%	50人	3.8%
総合計画	71人	5.1%	65人	5.0%
対話の場	96人	6.9%	83人	6.3%
熟議	97人	7.0%	66人	5.0%
伊丹市参画協働推進委員会	108人	7.8%	83人	6.3%
学習の機会の提供(まちづくり出前講座や市民まちづくりプラザにおける市民団体の支援)(※)	269人	19.3%	562人	42.9%
コミュニティ	374人	26.9%	313人	23.9%
地域自治組織	391人	28.1%	330人	25.2%
総数	1797人		2167人	
回答者数	1392人		1310人	

※「学習の機会の提供」は、前回(令和3年度)調査では選択肢が「まちづくり出前講座(学習の機会の提供)」290人/22.1%、「市民まちづくりプラザ(学習の機会の提供)」272人/20.8%であり、それぞれを足し合わせて比較した。

年代別で見ると、無回答をのぞくと、18歳～19歳、20歳代、40歳代では「コミュニティ」の割合が最も高く、30歳代では「その他」で「知らない・分からない」と答えた割合が最も高く、

50 歳代、60 歳代、70 歳代、80 歳以上では「地域自治組織」の割合が最も高くなっています。また、70 歳代、80 歳以上では「学習の機会の提供（まちづくり出前講座や市民まちづくりプラザにおける市民団体の支援）」の割合が他の年代より高くなっています。

(%)

	無回答	熟議	コミュニティ	地域自治組織	対話の場	総合計画	行政評価	学習の機会の提供 (まちづくり出前講座 や市民まちづくりプラ ザにおける市民団体の 支援)	伊丹市参画協働推 進委員会	その他	回答者数
18歳～19歳	42.9	7.1	21.4	0.0	0.0	0.0	7.1	14.3	7.1	14.3	16人
20歳代	35.1	1.8	21.1	21.1	3.5	1.8	3.5	5.3	8.8	5.3	61人
30歳代	21.2	2.7	15.0	15.9	4.4	2.7	1.8	11.5	6.2	16.8	111人
40歳代	17.5	7.5	23.6	17.0	4.7	5.2	5.7	16.0	5.2	17.5	254人
50歳代	13.7	5.5	18.5	19.6	4.8	4.4	3.3	16.2	6.6	15.9	294人
60歳代	4.7	7.4	25.1	28.4	6.5	3.7	4.7	17.2	7.4	14.9	258人
70歳代	3.1	7.3	41.5	41.5	8.3	6.6	5.9	28.0	8.3	8.7	460人
80歳以上	0.6	12.2	34.9	45.3	15.1	9.3	7.6	29.1	14.5	7.6	303人
無回答	0.0	6.1	16.3	26.5	4.1	2.0	8.2	10.2	2.0	6.1	40人
全体	10.3	7.0	26.9	28.1	6.9	5.1	5.0	19.3	7.8	12.7	1797人

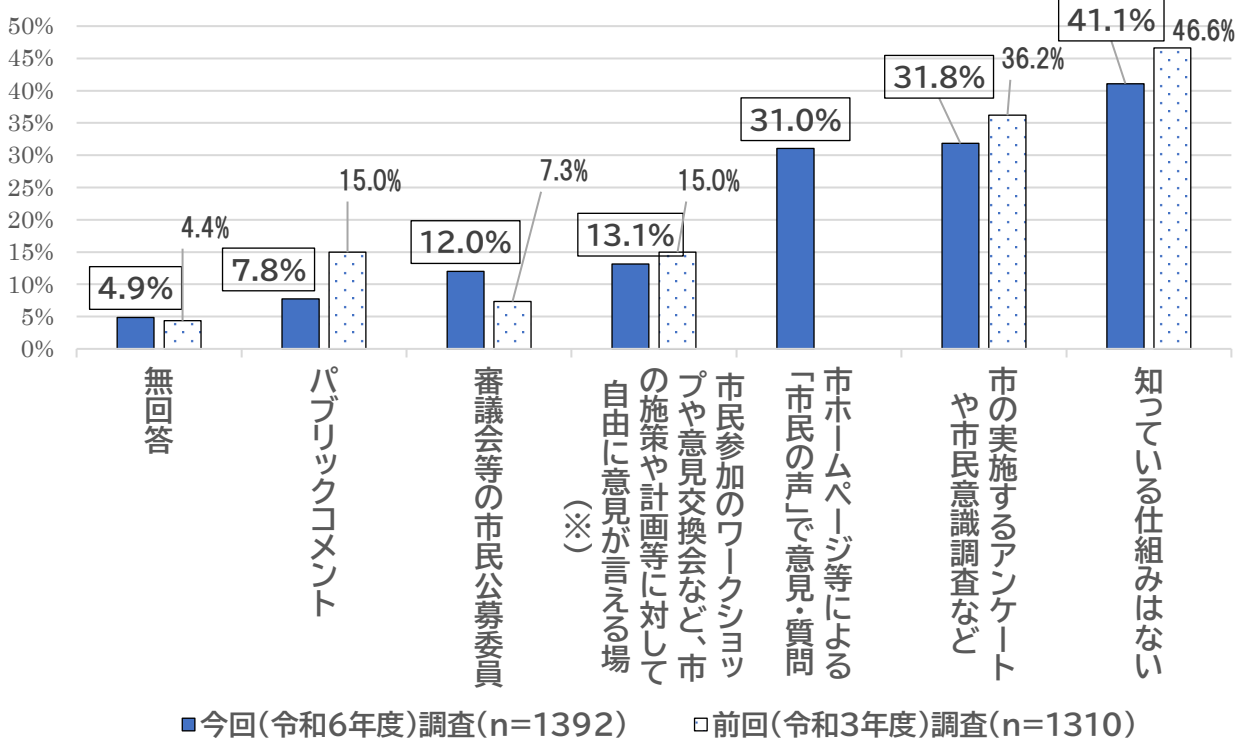
1位	2位	3位
----	----	----

3 「参画」を進めるために

問3 あなたが知っている「市政に参画する仕組み」はどれですか。(〇はいくつでも)

市政に参画する仕組みの認知度については、「知っている仕組みはない」が41.1%で最も高く、次いで「市の実施するアンケートや市民意識調査など」が31.8%、「市ホームページ等による『市民の声』で意見・質問」が31.0%と続いています。

令和3年度調査と比較すると、「パブリックコメント」(7.8%)が7.2%減少しています。



	今回調査 (n=1392)		前回調査 (n=1310)	
無回答	68人	4.9%	57人	4.4%
パブリックコメント	108人	7.8%	196人	15.0%
審議会等の市民公募委員	167人	12.0%	96人	7.3%
市民参加のワークショップや意見交換会など、市の施策や計画等に対して自由に意見が言える場(※)	183人	13.1%	196人	15.0%
市ホームページ等による「市民の声」で意見・質問	432人	31.0%	-	-
市の実施するアンケートや市民意識調査など	443人	31.8%	474人	36.2%
知っている仕組みはない	572人	41.1%	611人	46.6%
総数	1401人		1630人	124.4%
回答数	1392人		1310人	

※前回(令和3年度)調査では「市民会議や意見交換会など、自由に意見が言える場」

年代別でみると、すべての年代で「知っている仕組みはない」の割合が最も高くなっており、年代による大きな特徴は見られません。

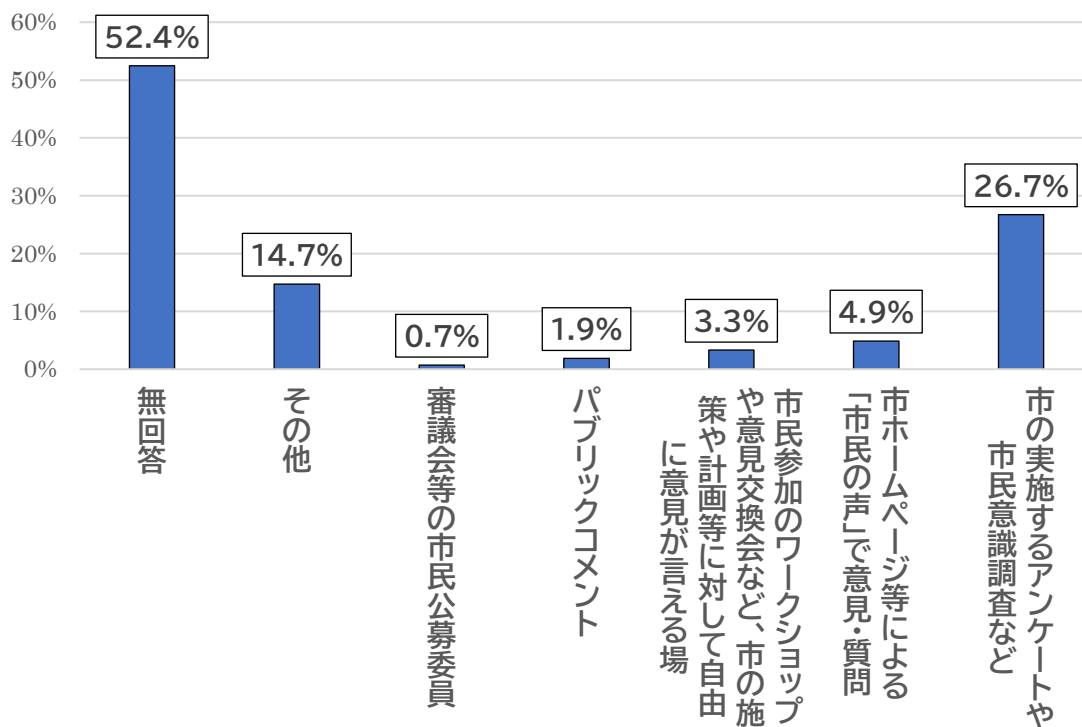
(%)

	無回答	審議会等の市民公募委員	パブリックコメント	市民参加のワークショップや意見交換会など、市の施策や計画等に対して自由に意見が言える場	市ホームページ等による「市民の声」で意見・質問	市の実施するアンケートや市民意識調査など	知っている仕組みはない	回答者数
18歳～19歳	0.0	7.1	0.0	7.1	7.1	7.1	78.6	15人
20歳代	0.0	10.5	14.0	15.8	31.6	38.6	45.6	89人
30歳代	1.8	4.4	13.3	8.0	31.9	32.7	44.2	154人
40歳代	0.5	4.2	17.9	13.2	33.5	33.5	41.5	306人
50歳代	2.2	10.0	14.4	11.4	33.6	29.9	43.9	394人
60歳代	2.8	9.3	12.1	14.0	33.5	29.3	36.7	296人
70歳代	3.8	6.6	8.3	14.2	28.0	34.9	43.3	402人
80歳以上	12.2	10.5	8.1	16.9	28.5	33.7	36.0	251人
無回答	42.9	6.1	6.1	10.2	26.5	18.4	24.5	66人
全体	4.9	7.8	12.0	13.1	31.0	31.8	41.1	1973人

1位	2位	3位
----	----	----

問4 あなたがこれまで参画したことがある仕組みはどれですか。(〇はいくつでも)

参画の仕組みの経験については、無回答とその他を除くと、「市の実施するアンケートや市民意識調査など」が26.7%と最も高く、次いで「市ホームページ等による『市民の声』で意見・質問」が4.9%、「市民参加のワークショップや意見交換会など、市の施策や計画等に対して自由に意見が言える場」が3.3%と続いています。



■今回(令和6年度)調査(n=1392)

今回調査
(n=1392)

無回答	730人	52.4%
その他	205人	14.7%
審議会等の市民公募委員	10人	0.7%
パブリックコメント	26人	1.9%
市民参加のワークショップや意見交換会など、市の施策や計画等に対して自由に意見が言える場	46人	3.3%
市ホームページ等による「市民の声」で意見・質問	68人	4.9%
市の実施するアンケートや市民意識調査など	372人	26.7%
総数	522人	
回答者数	1392人	

年代別でみると、無回答をのぞくと、どの世代でも「市の実施するアンケートや市民意識調査など」と答えた割合が最も高くなっています。

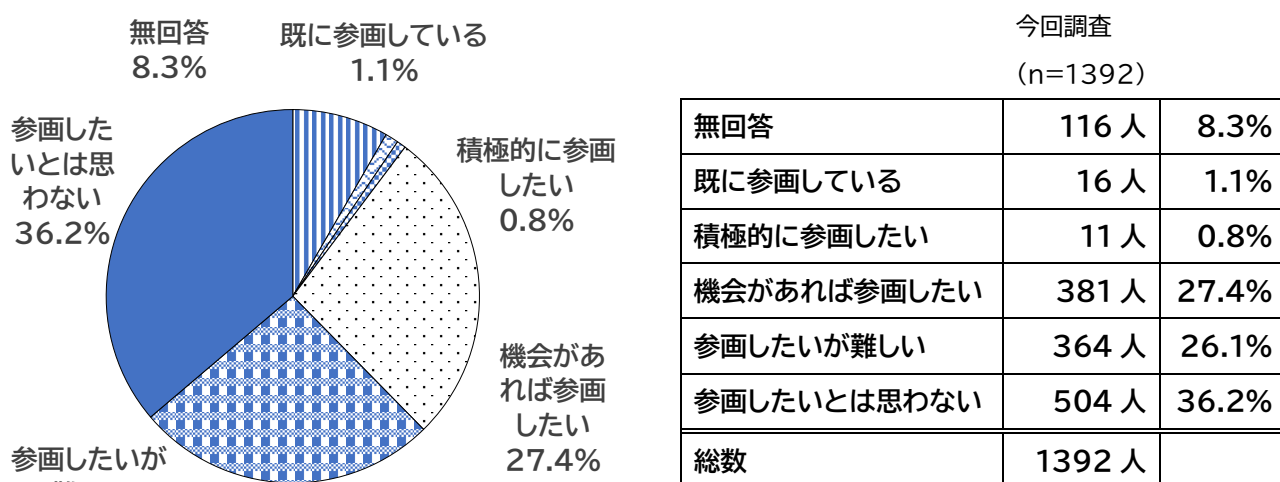
(%)

	無回答	審議会等の市民公募委員	パブリックコメント	市民参加のワークショップや意見交換会など、市の施策や計画等に対して自由に意見が言える場	市ホームページ等による「市民の声」で意見・質問	市の実施するアンケートや市民意識調査など	その他	回答者数
18歳～19歳	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	14.3	14人
20歳代	61.4	0.0	0.0	3.5	0.0	28.1	7.0	57人
30歳代	56.6	0.9	0.0	3.5	6.2	18.6	17.7	117人
40歳代	49.5	0.0	3.8	1.9	4.7	25.0	18.9	220人
50歳代	51.3	0.0	0.7	3.0	4.1	30.6	12.5	277人
60歳代	48.8	0.0	2.8	3.3	3.3	29.3	16.7	224人
70歳代	46.4	1.0	1.7	3.8	7.3	30.1	16.3	308人
80歳以上	59.3	2.9	2.9	4.7	6.4	22.1	11.6	189人
無回答	77.6	2.0	0.0	4.1	2.0	14.3	4.1	51人
合計	52.4	0.7	1.9	3.3	4.9	26.7	14.7	1457人

1位	2位	3位
----	----	----

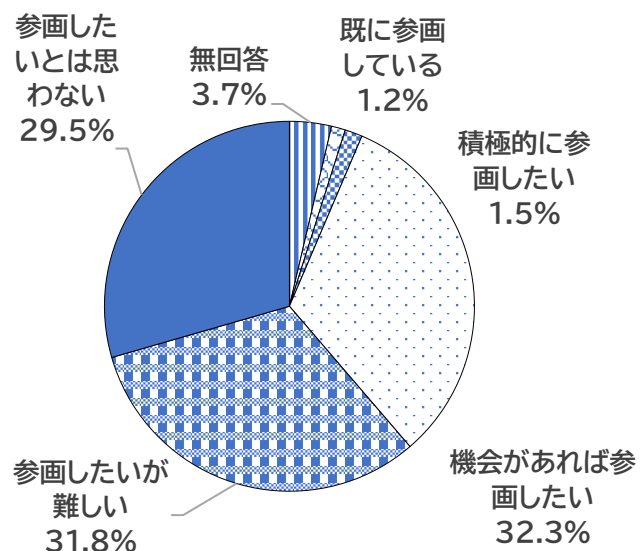
問5 問4の選択肢にある仕組みを活用し、市政に参画したいと思いますか。(○は1つ)

市政への参画意向については、「参画したいとは思わない」が36.2%と最も高く、次いで機会があれば参画したい」が27.4%、「参画したいが難しい」が26.1%と続いています。



今回(令和6年度)調査(n=1392)

令和3年度調査と比較すると、「参画したいとは思わない」(36.2%)が6.7ポイント増加し、「参画したいが難しい」(26.1%)が5.7ポイント減少、「機会があれば参画したい」(27.4%)が4.9ポイント減少、「積極的に参画したい」(27.4%)が0.7ポイント減少しました。



前回(令和3年度)調査(n=1310)

年代別でみると、18歳～19歳、50歳代、60歳代、70歳代では「参画したいとは思わない」と答えた割合が最も高く、20歳代、30歳代、40歳代では「機会があれば参画したい」の割合が最も高く、80歳以上は「参画したいとは思わない」と「参画したいが難しい」が同割合で最も高くなっています。また、「既に参画している」「積極的に参加したい」と「機会があれば参画したい」を合わせた割合は、30歳代、20歳代、40歳代の順に高くなっています。

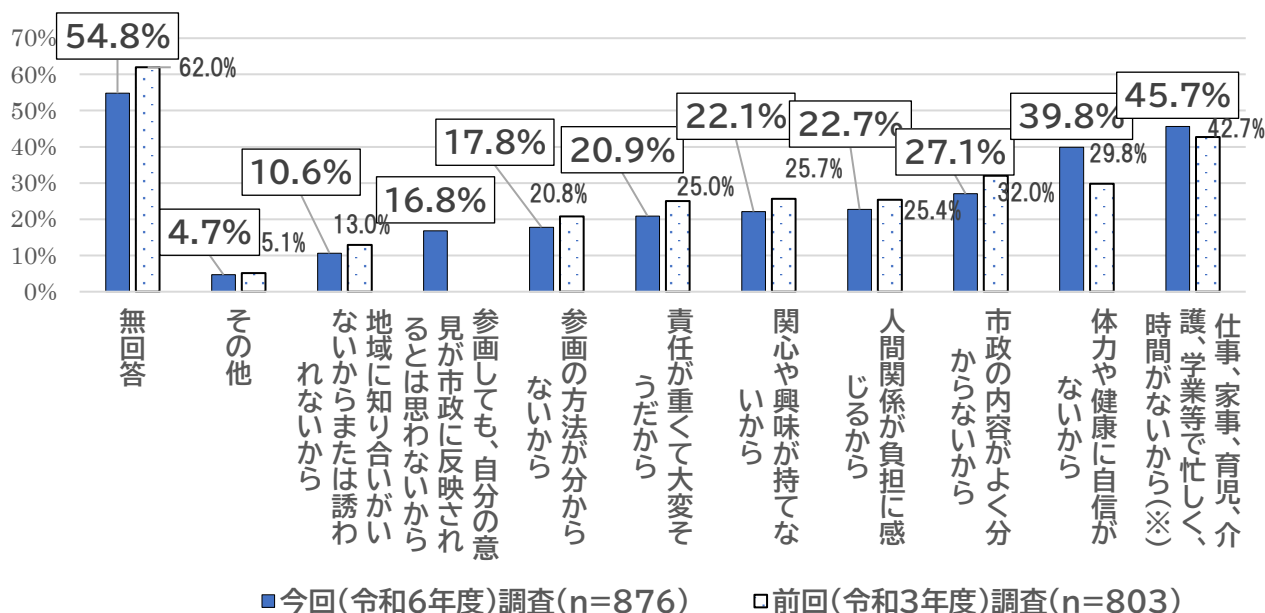
(%)

	無回答	既に参画している	積極的に参画したい	機会があれば参画したい	参画したいが難しい	参画したいとは思わない	回答者数
18歳～19歳	14.3	0.0	0.0	28.6	7.1	50.0	14.0
20歳代	7.0	1.8	0.0	42.1	22.8	26.3	57人
30歳代	0.9	3.5	0.9	40.7	21.2	32.7	113人
40歳代	3.8	0.5	1.4	37.7	23.1	33.5	212人
50歳代	3.0	1.1	0.0	32.8	25.8	37.3	271人
60歳代	4.7	0.0	1.4	31.2	24.2	38.6	215人
70歳代	10.0	1.0	0.7	15.6	30.8	41.9	289人
80歳以上	18.6	2.3	1.2	12.8	32.6	32.6	172人
無回答	44.9	0.0	0.0	8.2	20.4	26.5	49人
合計	8.3	1.1	0.8	27.4	26.1	36.2	1392人

1位	2位	3位
----	----	----

問6 問5で「4. 参画したいが難しい」、「5. 参画したいとは思わない」を選択された方にお聞きします。その理由について○をつけてください。(○はいくつでも)

参画できない・したいと思わない理由については、無回答をのぞいて、「仕事、家事、育児、介護、学業等で忙しく、時間がないから」が45.7%で最も高く、次いで、「体力や健康に自身がないから」が39.8%、「市政の内容がよく分からないから」が27.1%と続いています。



令和3年度調査と比較すると、「体力や健康に自身がないから」が10ポイント増加し、今回調査から新設した「参画しても、自分の意見が市政に反映されるとは思わないから」は16.8%でした。

	今回調査 (n=876)		前回調査 (n=803)	
無回答	480人	54.8%	498人	62.0%
その他	41人	4.7%	41人	5.1%
地域に知り合いがないからまたは誘われないから	93人	10.6%	104人	13.0%
参画しても、自分の意見が市政に反映されるとは思わないから	147人	16.8%	-	-
参画の方法が分からないから	156人	17.8%	167人	20.8%
責任が重くて大変そうだから	183人	20.9%	201人	25.0%
関心や興味が持てないから	194人	22.1%	206人	25.7%
人間関係が負担に感じるから	199人	22.7%	204人	25.4%
市政の内容がよく分からないから	237人	27.1%	257人	32.0%
体力や健康に自信がないから	349人	39.8%	239人	29.8%
仕事、家事、育児、介護、学業等で忙しく、時間がないから(※)	400人	45.7%	343人	42.7%
総数	1958人		1450人	
回答者数	876人		803人	

※令和6年度調査から選択肢に「学業」を追加

年代別でみると、無回答をのぞいて、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代で「仕事、家事、育児、介護、学業等で忙しく、時間がないから」の割合が最も高くなっています。70歳から80歳代以上では「体力や健康に自身がないから」と答えた割合が最も高く、18歳～19歳では「関心や興味が持てないから」が最も高くなっています。

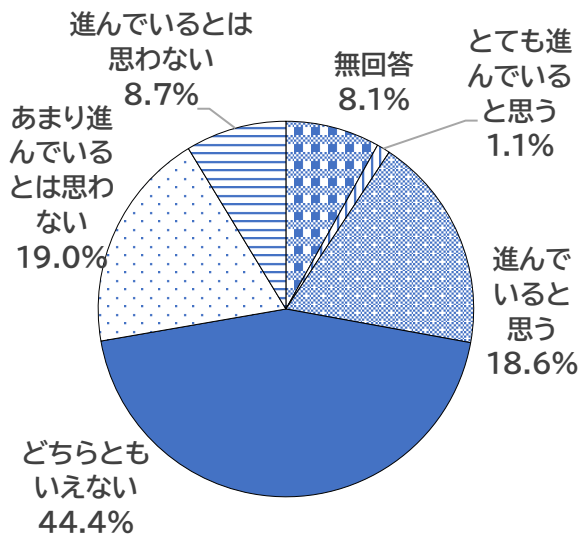
(%)

	無回答	仕事、家事、育児、介護、学業等で忙しく、時間がないから	体力や健康に自信がないから	市政の内容がよく分からないから	地域に知り合いがいなからまたは誘われないから	責任が重くて大変そうだから	人間関係が負担に感じているから	参画の方法が分からないから	関心や興味が持てないから	参画しても、自分の意とは思われないから	その他	回答者数
18歳～19歳	42.9	35.7	14.3	21.4	7.1	14.3	14.3	21.4	42.9	7.1	0.0	31人
20歳代	49.1	28.1	7.0	14.0	1.8	3.5	5.3	14.0	21.1	8.8	3.5	89人
30歳代	46.9	38.9	6.2	17.7	4.4	8.0	9.7	10.6	13.3	15.0	1.8	195人
40歳代	42.9	39.2	9.0	17.0	5.2	9.0	12.3	10.4	9.0	13.7	0.5	356人
50歳代	35.8	45.4	12.5	18.1	8.1	15.5	17.3	12.2	13.7	12.2	1.8	522人
60歳代	35.8	29.3	19.1	20.0	7.4	12.6	20.0	9.3	16.7	8.4	1.9	388人
70歳代	21.5	16.6	41.9	19.4	6.2	16.6	17.0	13.1	17.6	10.7	3.8	533人
80歳以上	23.8	7.0	61.6	10.5	8.7	16.3	9.3	10.5	8.7	5.2	9.3	294人
無回答	51.0	12.2	30.6	8.2	8.2	12.2	4.1	4.1	6.1	8.2	0.0	71人
合計 (n=876)	54.8	45.7	39.8	27.1	10.6	20.9	22.7	17.8	22.1	16.8	4.7	2479人

1位	2位	3位
----	----	----

問7 伊丹市での情報の共有は進んでいると思いますか。(〇は1つ)

情報共有の進展度については、「どちらともいえない」が44.4%で最も高く、「進んでいると感じる一方で、課題もある」もしくは「自分では判断ができない」と感じている回答者が多いことが読み取れます。次いで「あまり進んでいるとは思わない」が19.0%、「進んでいると思う」が18.6%と続いています。



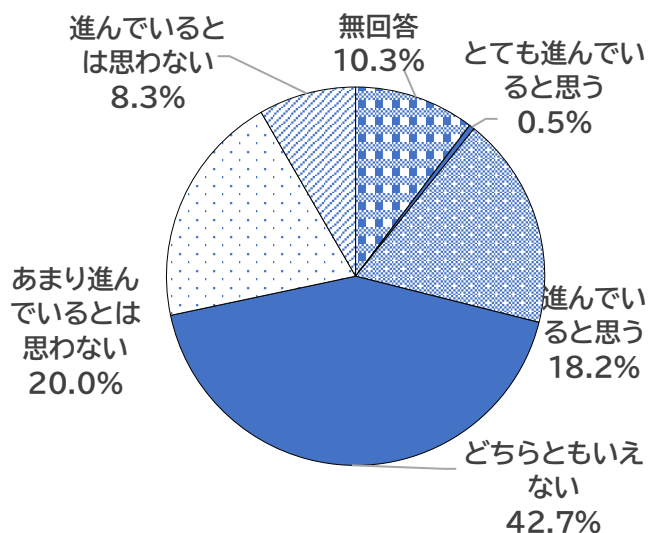
今回調査
(n=1392)

無回答	113人	8.1%
とても進んでいると思う	16人	1.1%
進んでいると思う	259人	18.6%
どちらともいえない	618人	44.4%
あまり進んでいるとは思わない	265人	19.0%
進んでいるとは思わない	121人	8.7%
総数	1392人	

今回(令和6年度)調査(n=1392)

令和3年度調査と比較すると、大きな差異は見られませんでした。

具体的には、「あまり進んでいるとは思わない」(19.0%)と「進んでいるとは思わない」(8.7%)を足した割合(27.7%)は0.6ポイント減少し、「とても進んでいると思う」(1.1%)と「進んでいると思う」(18.6%)を足した割合(19.8%)が1.2ポイント上昇しています。



前回(令和3年度)調査(n=1310)調査

年代別でみると、80歳以上では「進んでいると思う」の割合が最も高くなっていますが、それ以外の年代では「どちらともいえない」の割合が最も高く、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代では

二番目に「あまり進んでいるとは思えない」の割合が高くなっています。20 歳代、70 歳代では二番目には「進んでいると思う」の割合が高くなっています。

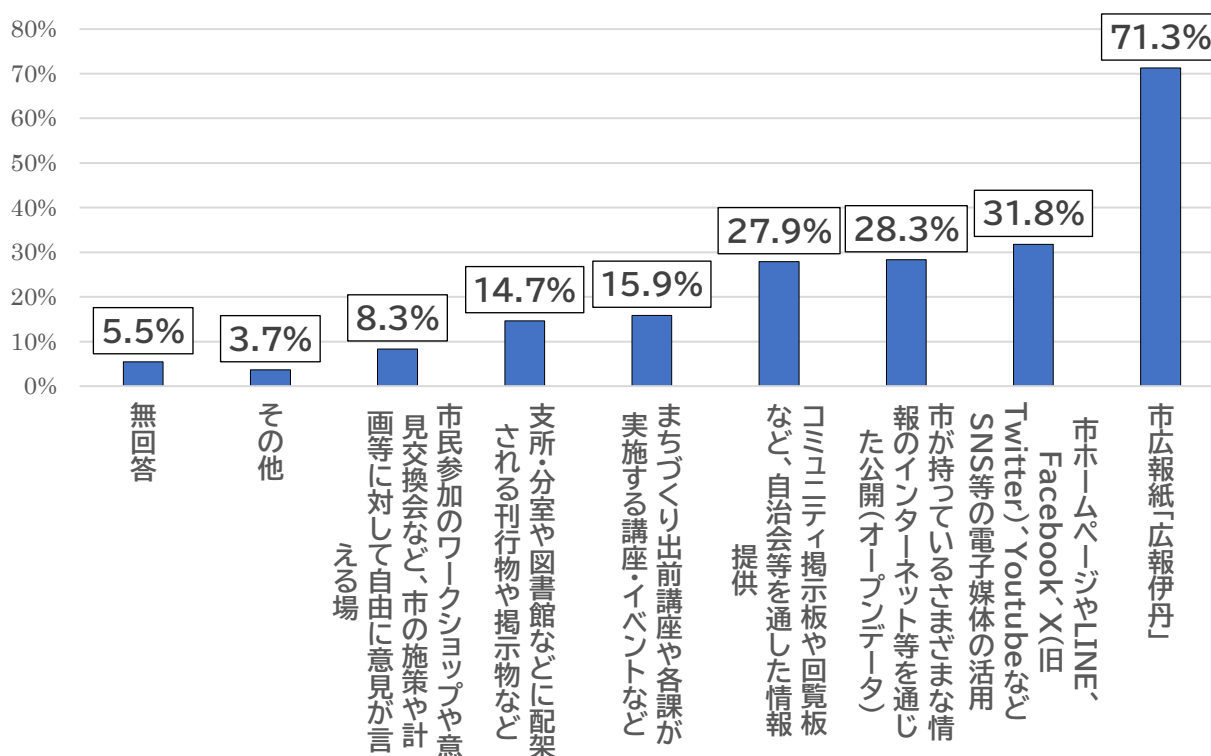
(%)

	無回答	とても進んでいると思う	進んでいると思う	どちらともいえない	あまり進んでいるとは思わない	進んでいるとは思わない	回答者数
18歳～19歳	0.0	0.0	35.7	42.9	21.4	0.0	14人
20歳代	5.3	1.8	28.1	36.8	15.8	12.3	57人
30歳代	1.8	0.9	16.8	52.2	21.2	7.1	113人
40歳代	1.9	0.5	12.7	49.1	25.9	9.9	212人
50歳代	5.5	0.4	12.2	52.4	18.1	11.4	271人
60歳代	9.8	0.9	13.5	42.8	24.7	8.4	215人
70歳代	10.4	0.3	22.5	44.6	13.1	9.0	289人
80歳以上	10.5	4.7	33.7	31.4	14.5	5.2	172人
無回答	40.8	2.0	14.3	22.4	18.4	2.0	49人
合計	8.1	1.1	18.6	44.4	19.0	8.7	1392人

1位	2位	3位
----	----	----

問8 あなたが「市民と市が情報を共有する方法」の中で充実してほしいものはどれですか。(〇はいくつでも)

情報共有手段の充実希望については、「市広報紙『広報伊丹』」(71.3%)が最も高く、次いで「市ホームページやLINE、Facebook、X(旧Twitter)、Youtube など SNS 等の電子媒体の活用」が31.8%、「市が持っているさまざまな情報のインターネット等を通じた公開(オープンデータ)」が28.3%と続いています。



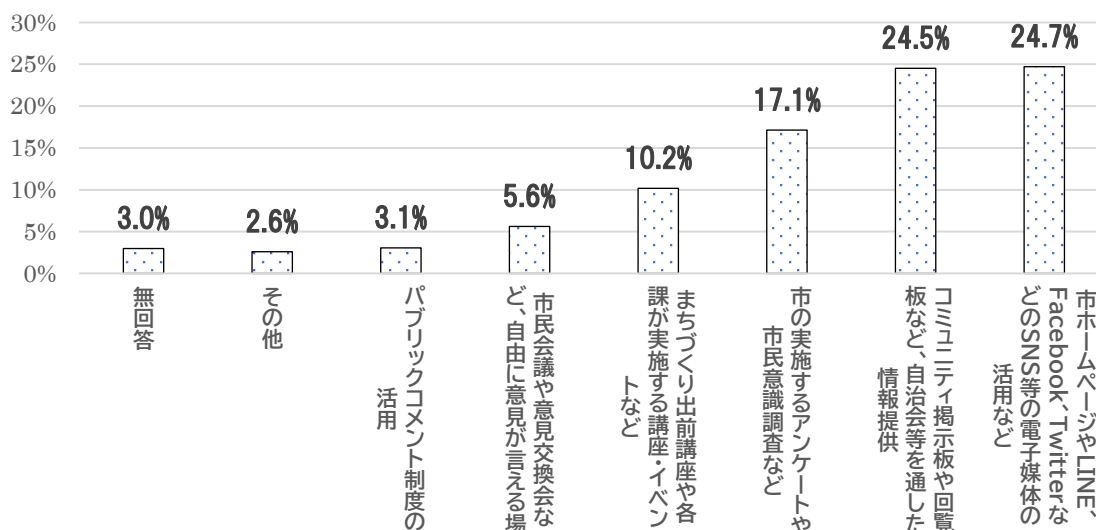
今回調査
(n=1392)

無回答	76人	5.5%
その他	51人	3.7%
市民参加のワークショップや意見交換会など、市の施策や計画等に対して自由に意見が言える場	116人	8.3%
支所・分室や図書館などに配架される刊行物や掲示物など	204人	14.7%
まちづくり出前講座や各課が実施する講座・イベントなど	221人	15.9%
コミュニティ掲示板や回覧板など、自治会等を通じた情報提供	388人	27.9%
市が持っているさまざまな情報のインターネット等を通じた公開(オープンデータ)	394人	28.3%
市ホームページやLINE、Facebook、X(旧Twitter)、Youtube など SNS 等の電子媒体の活用	442人	31.8%
市広報紙「広報伊丹」	992人	71.3%
総数	2808人	
回答者数	1392人	

令和3年度調査の設問「あなたが市民と市が情報を共有できると思う方法」の回答と比較すると、「市ホームページや（中略）SNS等の電子媒体の活用」（31.8%）が7.1ポイント上昇し、「まちづくり出前講座や各課が実施する講座・イベントなど」（15.9%）が5.7ポイント上昇しました。

<参考比較> 前回(令和3年度)調査(n=1310)

あなたが「市民と市が情報を共有できると思う方法」はどれですか。(〇はいくつでも)



年代別で見ると、18歳～19歳、20歳代、30歳代では「市ホームページや（中略）SNS等の電子媒体の活用」の割合が最も高く、それ以外の年代では市広報紙「広報伊丹」の割合が最も高くなっています。70歳代以上の世代では、「コミュニティ掲示板や回覧板など、自治会等を通じた情報提供」の割合が他の世代より高く、「市ホームページや（中略）SNS等の電子媒体の活用」の割合が他の世代より低くなっています。20歳代から60歳代では「市が持っているさまざまな情報のインターネット等を通じた公開（オープンデータ）」が他の世代より高くなっています。

	(%)									
	無回答	市広報紙「広報伊丹」	支所・分室や図書館などに配架される刊行物や掲示物など	まちづくり出前講座や各課が実施する講座・イベントなど	市ホームページやLINE、Facebook、X(旧Twitter)、YouTubeなどのSNS等の電子媒体の活用	コミュニティ掲示板や回覧板など、自治会等を通じた情報提供	市民参加のワークショップや意見交換会など、市の施策や計画等に対して自由に意見が言える場	市が持っているさまざまな情報のインターネット等を通じた公開（オープンデータ）	その他	回答者数
18歳～19歳	14.3	42.9	14.3	0.0	50.0	14.3	0.0	14.3	0.0	21人
20歳代	5.3	40.4	12.3	14.0	57.9	14.0	7.0	42.1	1.8	111人
30歳代	2.7	51.3	9.7	13.3	63.7	16.8	6.2	33.6	1.8	225人
40歳代	1.9	66.5	8.5	14.6	42.9	19.3	9.0	40.1	3.3	437人
50歳代	3.3	70.8	12.5	14.4	42.4	17.0	8.9	42.1	3.7	583人
60歳代	3.3	79.5	16.7	17.2	31.6	28.4	9.8	33.5	2.8	479人
70歳代	4.8	82.0	19.4	19.0	13.5	42.6	6.6	13.8	3.8	594人
80歳以上	7.6	83.7	19.8	19.2	8.7	45.3	11.6	8.1	7.6	364人
無回答	42.9	40.8	12.2	6.1	4.1	20.4	4.1	10.2	2.0	70人
合計	5.5	71.3	14.7	15.9	31.8	27.9	8.3	28.3	3.7	2884人

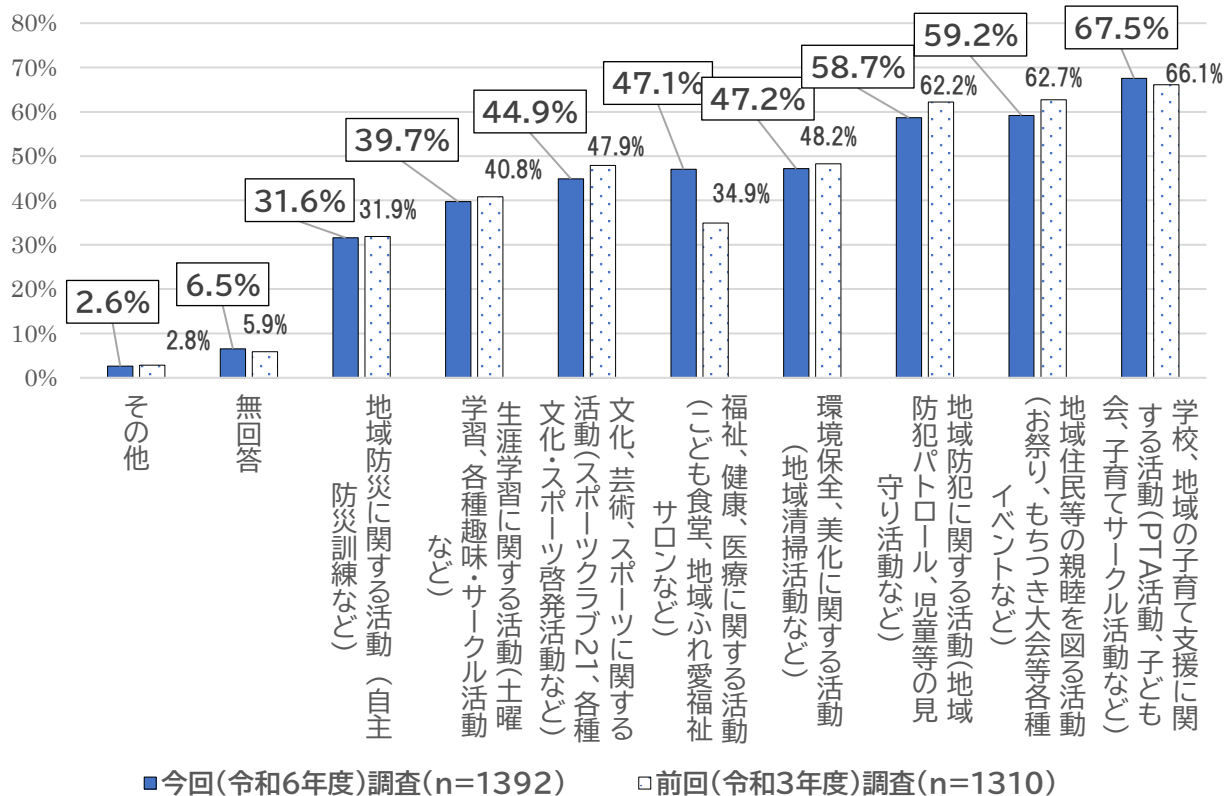
1位	2位	3位
----	----	----

4 「市民活動」を進めるために

問9 あなたが知っている市民活動はどれですか。(〇はいくつでも)

市民活動の認知度については、「学校、地域の子育て支援に関する活動(PTA活動、子ども会、子育てサークル活動など)」(67.5%)が最も高く、次いで、「地域住民等の親睦を図る活動(お祭り、もちつき大会等各種イベントなど)」(59.2%)、「地域防犯に関する活動(地域防犯パトロール、児童等の見守り活動など)」(58.7%)が続きます。

令和3年度調査と比較すると、「福祉、健康、医療に関する活動(こども食堂、地域ふれ愛福祉サロンなど)」(47.1%)が12.2ポイント増加しました。



	今回調査 (n=1392)		前回調査 (n=1310)	
その他	36人	2.6%	37人	2.8%
無回答	91人	6.5%	77人	5.9%
地域防災に関する活動(自主防災訓練など)	440人	31.6%	418人	31.9%
生涯学習に関する活動(土曜学習、各種趣味・サークル活動など)	553人	39.7%	535人	40.8%
文化、芸術、スポーツに関する活動(スポーツクラブ21、各種文化・スポーツ啓発活動など)	625人	44.9%	628人	47.9%
福祉、健康、医療に関する活動(こども食堂、地域ふれ愛福祉サロンなど)	655人	47.1%	457人	34.9%
環境保全、美化に関する活動(地域清掃活動など)	657人	47.2%	632人	48.2%

地域防犯に関する活動(地域防犯パトロール、児童等の見守り活動など)	817人	58.7%	815人	62.2%
地域住民等の親睦を図る活動(お祭り、もちつき大会等各種イベントなど)	824人	59.2%	822人	62.7%
学校、地域の子育て支援に関する活動(PTA活動、子ども会、子育てサークル活動など)	940人	67.5%	866人	66.1%
総数	5638人		5287人	
回答者数	1392人		1310人	

年代による目立った特徴は見られず、どの世代でも「学校、地域の子育て支援に関する活動」、「地域防犯に関する活動」、「地域住民等の親睦を図る活動」の割合が高く、「地域防災に関する活動」の割合が低くなっています。

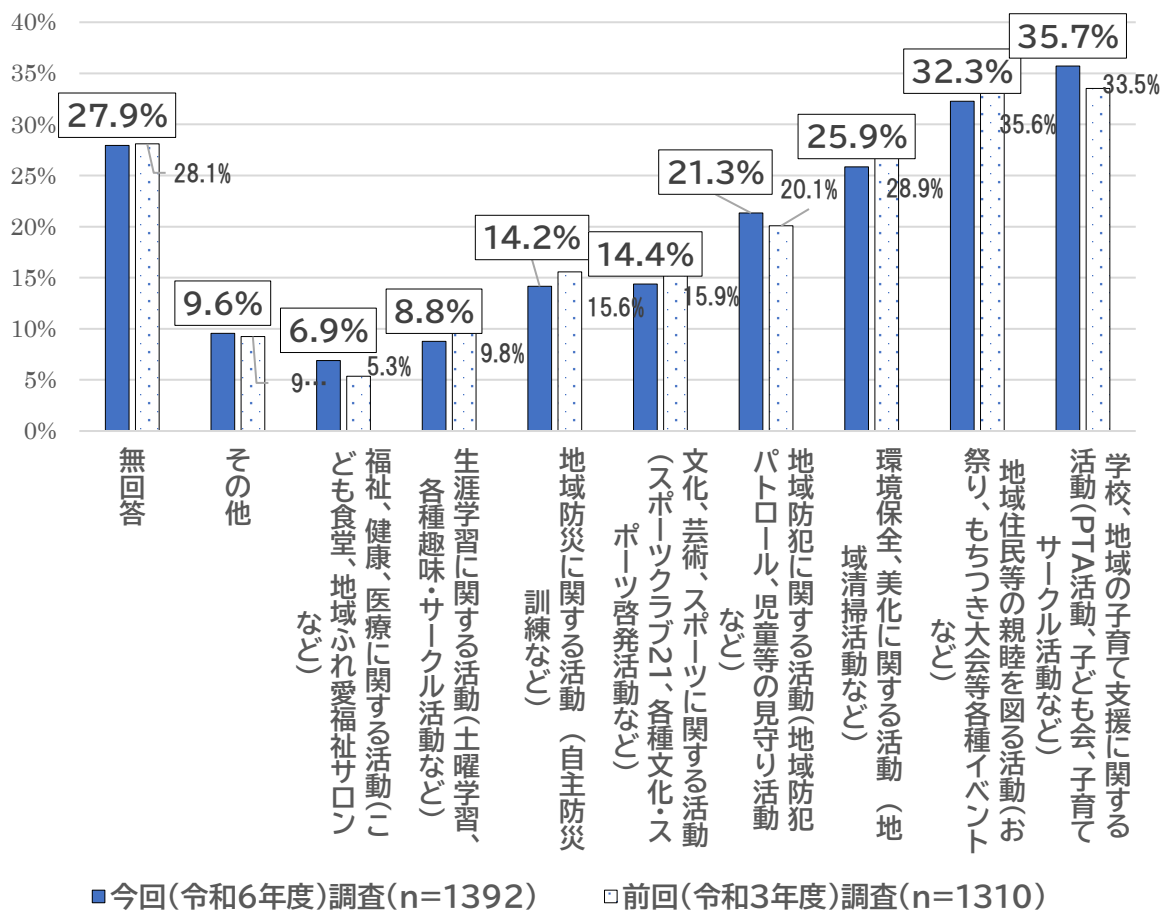
	無回答	子ども会、子育てサークル、PTA活動、学校、地域の活動(PTA活動、子ども会、子育てサークル活動など)	生涯学習、各種趣味・サークル活動など)	福祉、健康、医療に関する活動(こども食堂、地域ふれあいサロンなど)	21世紀文化、芸術、スポーツに関する活動(スポーツクラブ、文化・スポーツイベントなど)	環境保全、美化に関する活動(地域清掃活動など)	地域防犯に関する活動(パトロール、見守り活動など)	地域防災に関する活動(自主防災訓練など)	地域住民等の親睦を図る活動(お祭り、もちつき大会等各種イベントなど)	その他	回答者数
18歳~19歳	0.0	85.7	50.0	42.9	42.9	42.9	78.6	21.4	71.4	0.0	61人
20歳代	5.3	84.2	38.6	36.8	42.1	47.4	57.9	17.5	63.2	0.0	224人
30歳代	0.9	75.2	34.5	46.9	41.6	38.9	55.8	27.4	63.7	0.9	436人
40歳代	5.2	76.9	48.1	53.3	51.9	41.5	60.4	27.8	64.2	2.4	915人
50歳代	3.7	77.1	43.5	43.9	57.2	49.1	62.7	30.6	61.6	1.8	1169人
60歳代	4.2	70.2	40.0	50.2	43.7	51.2	67.4	33.5	58.6	3.3	908人
70歳代	5.2	57.4	38.1	46.7	38.4	51.2	54.0	34.6	56.7	3.1	1114人
80歳以上	12.8	51.7	35.5	51.2	37.2	51.2	51.7	39.5	55.2	4.1	671人
無回答	40.8	34.7	16.3	24.5	28.6	26.5	44.9	28.6	36.7	4.1	140人
合計	6.5	67.5	39.7	47.1	44.9	47.2	58.7	31.6	59.2	2.6	5638人

1位	2位	3位
----	----	----

問10 あなたがこれまで「企画・運営の担い手としてかかわったことがある市民活動」はどれですか。(〇はいくつでも)

担い手としてかかわったことがある市民活動については、「学校、地域の子育て支援に関する活動(PTA活動、子ども会、子育てサークル活動など)」(35.7%)が最も高く、次いで「地域住民等の親睦を図る活動(お祭り、もちつき大会等各種イベントなど)」(32.3%)、「環境保全、美化に関する活動(地域清掃活動など)」(25.9%)と続いています。

令和3年度調査と比較すると、目立った変化は見られず、「学校、地域の子育て支援に関する活動(PTA活動、子ども会、子育てサークル活動など)」(35.7%)は2.2ポイント上昇し、「地域住民等の親睦を図る活動(お祭り、もちつき大会等各種イベントなど)」(32.3%)は3.3ポイント減少し、環境保全、美化に関する活動(地域清掃活動など)」(25.9%)は3ポイント減少しています。



	今回調査 (n=1392)		前回調査 (n=1310)	
無回答	389人	27.9%	368人	28.1%
その他	133人	9.6%	121人	9.2%
福祉、健康、医療に関する活動(こども食堂、地域ふれ愛福祉サロンなど)	96人	6.9%	70人	5.3%
生涯学習に関する活動(土曜学習、各種趣味・サークル活動など)	122人	8.8%	128人	9.8%

地域防災に関する活動（自主防災訓練など）	197人	14.2%	204人	15.6%
文化、芸術、スポーツに関する活動（スポーツクラブ 21、各種文化・スポーツ啓発活動など）	200人	14.4%	208人	15.9%
地域防犯に関する活動（地域防犯パトロール、児童等の見守り活動など）	297人	21.3%	263人	20.1%
環境保全、美化に関する活動（地域清掃活動など）	360人	25.9%	378人	28.9%
地域住民等の親睦を図る活動（お祭り、もちつき大会等各種イベントなど）	449人	32.3%	466人	35.6%
学校、地域の子育て支援に関する活動（PTA 活動、子ども会、子育てサークル活動など）	497人	35.7%	439人	33.5%
総数	2218人		2645人	
回答者数	1392人		1310人	

年代別でみると、無回答をのぞくと、18歳～19歳、20歳代では、「地域住民等の親睦を図る活動」の割合が高く、30歳、40歳代、50歳代、60歳代では「学校、地域の子育て支援に関する活動」、「地域住民等の親睦を図る活動」の割合が高く、70歳以上の世代では「地域住民等の親睦を図る活動」、「環境保全、美化に関する活動」の割合が高くなっています。

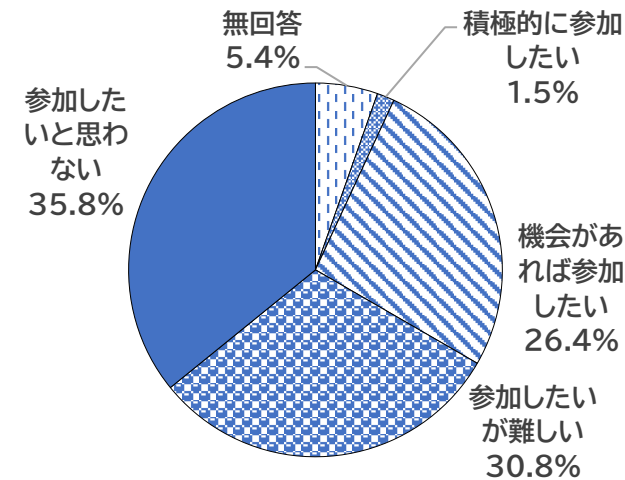
	無回答	子ども会、子育てサークル活動など	学校、地域の子ども会、子育てサークル活動など	生涯学習に関する活動（趣味・サークル活動など）	福祉、健康、医療に関する活動（高齢者サロンなど）	文化、芸術、スポーツに関する活動（各種文化・スポーツクラブに啓発活動など）	環境保全、美化に関する活動（地域清掃活動など）	地域防犯パトロール、児童等の見守り活動など	（地域防災に関する活動）（自主防災訓練など）	地域住民等の親睦を図る活動（お祭り、もちつき大会など）	その他	回答者数
18-19歳	21.4	7.1	14.3	0.0	14.3	7.1	7.1	0.0	35.7	21.4	18人	
20-29歳	38.6	12.3	12.3	8.8	14.0	10.5	3.5	8.8	29.8	8.8	84人	
30-39歳	45.1	20.4	7.1	4.4	9.7	8.8	10.6	2.7	19.5	12.4	159人	
40-49歳	23.6	47.2	8.5	6.1	17.0	20.8	23.6	12.3	29.2	10.4	421人	
50-59歳	26.9	49.8	7.0	3.7	18.5	23.2	26.9	11.8	30.3	8.9	561人	
60-69歳	20.9	40.9	6.5	6.5	14.9	32.6	23.3	14.9	38.1	7.4	443人	
70-79歳	22.8	32.2	9.7	9.7	13.1	34.3	22.1	20.1	38.1	9.7	612人	
80歳以上	27.9	22.7	14.5	12.2	12.2	36.6	22.7	20.9	35.5	11.6	373人	
無回答	63.3	22.4	2.0	0.0	4.1	8.2	12.2	10.2	16.3	2.0	69人	
合計	27.9	35.7	8.8	6.9	14.4	25.9	21.3	14.2	32.3	9.6	2740人	

1位	2位	3位
----	----	----

問11 今後、「市民活動に運営者の一員として参加したい」と思いますか。(○は1つ)

市民活動への担い手としての参加意向については、「参加したいと思わない」(35.8%)の割合が最も高く、次いで「参加したいが難しい」(30.8%)、「機会があれば参加したい」(26.4%)、「積極的に参加したい」(1.5%)と続いています。

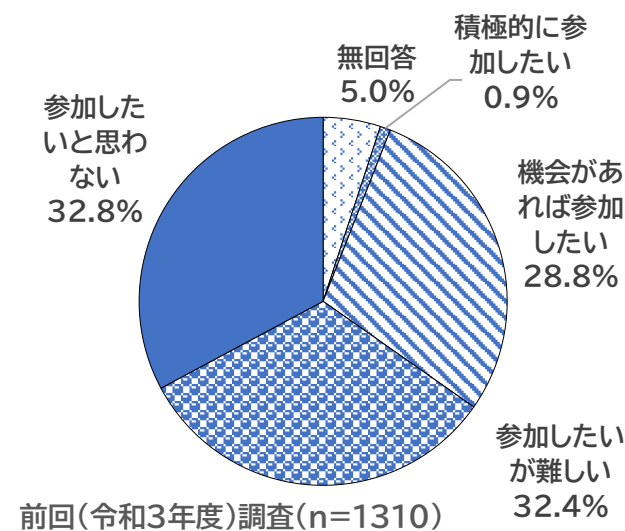
今回調査
(n=1392)



無回答	75人	5.4%
積極的に参加したい	21人	1.5%
機会があれば参加したい	368人	26.4%
参加したいが難しい	429人	30.8%
参加したいと思わない	499人	35.8%
総数	1392人	

今回(令和6年度)調査(n=1392)

令和3年度調査と比較すると、目立った変化は見られず、「参加したいと思わない」(35.8%)は3ポイント増加、「参加したいが難しい」(30.8%)は1.6ポイント減少、「機会があれば参加したい」(26.4%)は2.4ポイント減少、「積極的に参加したい」(1.5%)は0.6%増加しています。

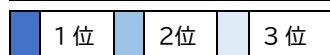


前回(令和3年度)調査(n=1310)

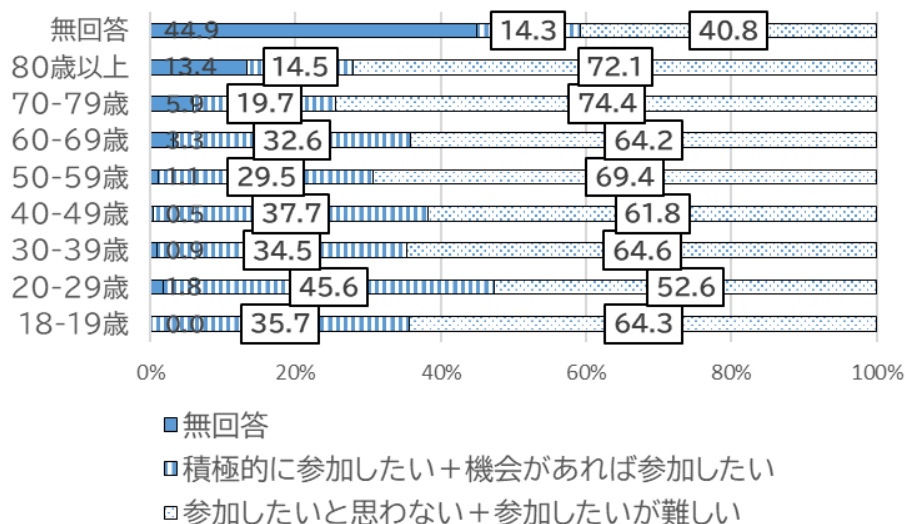
年代別でみると、20歳代、40歳代では、「機会があれば参加したい」の割合が最も高く、30歳代では「参加したいと思わない」の割合が最も高くなっています。70歳代以上の世代では「参加したいと思わない」、「参加したいが難しい」の割合が他の世代より高くなっています。

(%)

	無回答	積極的に参加したい	機会があれば参加したい	参加したいが難しい	参加したくないと思わない	回答者数
18歳～19歳	0.0	0.0	35.7	21.4	42.9	14人
20歳代	1.8	5.3	40.4	21.1	31.6	57人
30歳代	0.9	3.5	31.0	27.4	37.2	113人
40歳代	0.5	2.4	35.4	28.8	33.0	212人
50歳代	1.1	0.7	28.8	32.1	37.3	271人
60歳代	3.3	0.9	31.6	27.0	37.2	215人
70歳代	5.9	0.3	19.4	34.9	39.4	289人
80歳以上	13.4	1.7	12.8	39.0	33.1	172人
無回答	44.9	2.0	12.2	18.4	22.4	49人
合計	5.4	1.5	26.4	30.8	35.8	1392人



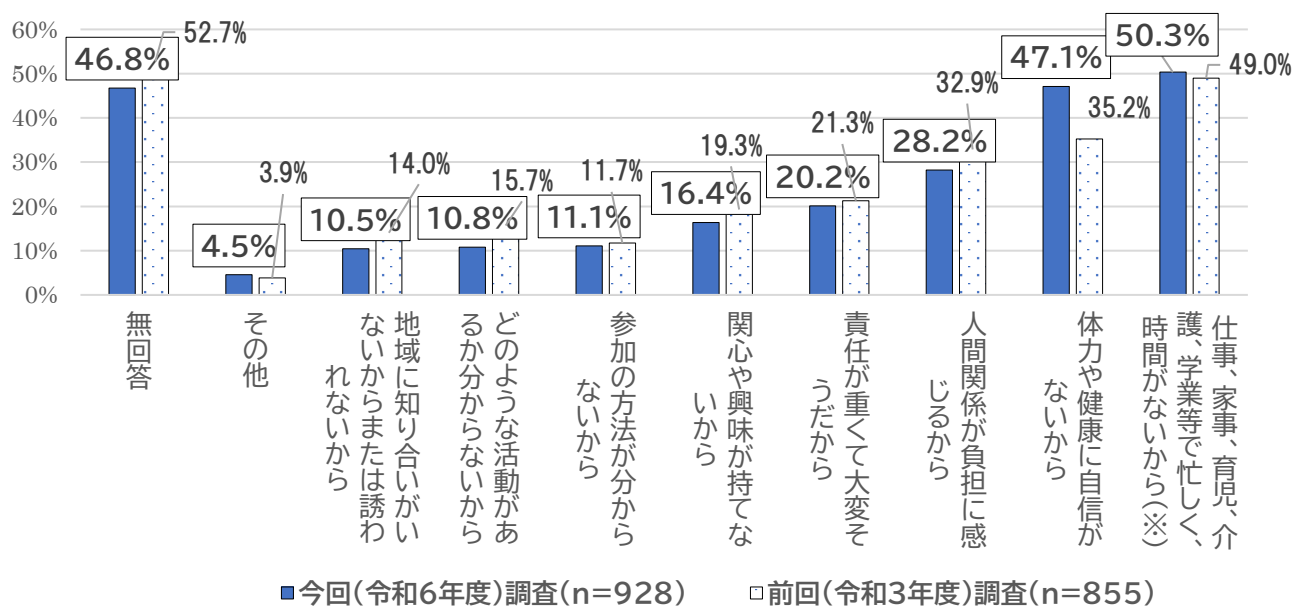
「積極的に参加したい」と「機会があれば参加したい」の合計が最も高い割合は、20歳代（45.6%）で、次いで40歳代（37.7%）と続きます。



問12 問11で「3. 参加したいが難しい」、「4. 参加したいと思わない」を選択された方は、その理由を教えてください。(〇はいくつでも)

市民活動の担い手への不参加理由については、「仕事、家事、育児、介護、学業等で忙しく、時間がないから」(50.3%)が最も高く、次いで「体力や健康に自身が無いから」(47.1%)、「人間関係が負担に感じるから」(28.2%)、「責任が重くて大変そうだから」と続いています。

令和3年度調査と比較すると、「体力や健康に自身が無いから」(47.1%)が11.9ポイント増加し、「人間関係が負担に感じるから」(28.2%)が4.7ポイント減少しています。



	今回調査 (n=928)		前回調査 (n=855)	
無回答	434人	46.8%	451人	52.7%
その他	42人	4.5%	33人	3.9%
地域に知り合いがないからまたは誘われないから	97人	10.5%	120人	14.0%
どのような活動があるか分からないから	100人	10.8%	134人	15.7%
参加の方法が分からないから	103人	11.1%	100人	11.7%
関心や興味が持てないから	152人	16.4%	165人	19.3%
責任が重くて大変そうだから	187人	20.2%	182人	21.3%
人間関係が負担に感じるから	262人	28.2%	281人	32.9%
体力や健康に自信がないから	437人	47.1%	301人	35.2%
仕事、家事、育児、介護、学業等で忙しく、時間がないから(※)	467人	50.3%	419人	49.0%
総数	1847人		2186人	
回答者数	928人		855人	

※令和6年度調査から選択肢に「学業」を追加

年代別でみると、無回答をのぞいて、70歳以上の年代では「体力や健康に自身がないから」の割合が最も高く、その他の年代では「仕事、家事、育児、介護、学業等で忙しく、時間がないから」が最も高くなっています。

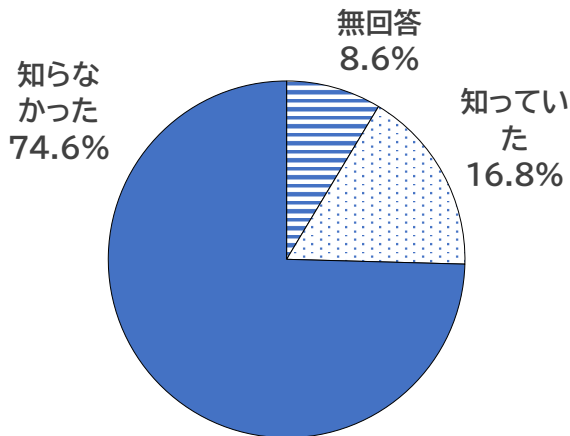
(%)

	無回答	仕事、家事、育児、介護、学業等で忙しく、時間がないから	体力や健康に自身がないから	あのような活動があるから	地域に知り合いないからまたは誘われないから	責任が重くて大変そうだから	人間関係が負担に感じるから	参加の方法が分からないから	関心や興味がないから	その他	回答者数
18歳～19歳	35.7	57.1	21.4	7.1	21.4	21.4	14.3	14.3	21.4	0.0	30人
20歳代	45.6	33.3	10.5	3.5	5.3	8.8	10.5	8.8	19.3	1.8	84人
30歳代	36.3	48.7	8.8	11.5	10.6	12.4	23.0	7.1	14.2	0.9	196人
40歳代	38.2	45.3	11.8	6.1	8.0	12.3	18.4	5.7	11.3	0.9	335人
50歳代	29.5	53.1	18.5	9.6	6.6	15.1	24.4	7.0	11.8	1.8	481人
60歳代	33.5	33.0	25.6	6.0	7.4	14.4	24.7	7.9	13.5	1.4	360人
70歳代	23.2	20.1	54.0	7.3	5.5	15.6	18.3	9.0	9.3	2.4	476人
80歳以上	20.3	5.2	68.0	5.2	5.8	11.6	7.0	8.1	4.7	12.8	256人
無回答	55.1	14.3	30.6	4.1	4.1	4.1	10.2	0.0	4.1	2.0	63人
合計(n=928)	46.8	50.3	47.1	10.8	10.5	20.2	28.2	11.1	16.4	4.5	2281人

1位	2位	3位
----	----	----

問13 市民まちづくりプラザがどのような施設か、このアンケート以前に知っていましたか。(〇は1つ)

市民まちづくりプラザの認知度については、「知らなかった」(74.6%)が最も高く、「知っていた」は16.8%でした。



無回答	120人	8.6%
知っていた	234人	16.8%
知らなかった	1038人	74.6%
総数	1392人	

今回(令和6年度)調査(n=1392)

年代による目立った特徴は見られず、どの世代でも「知らなかった」が最も高くなっていますが、60歳代以上の世代は、「知っていた」の割合が若干高くなっています。

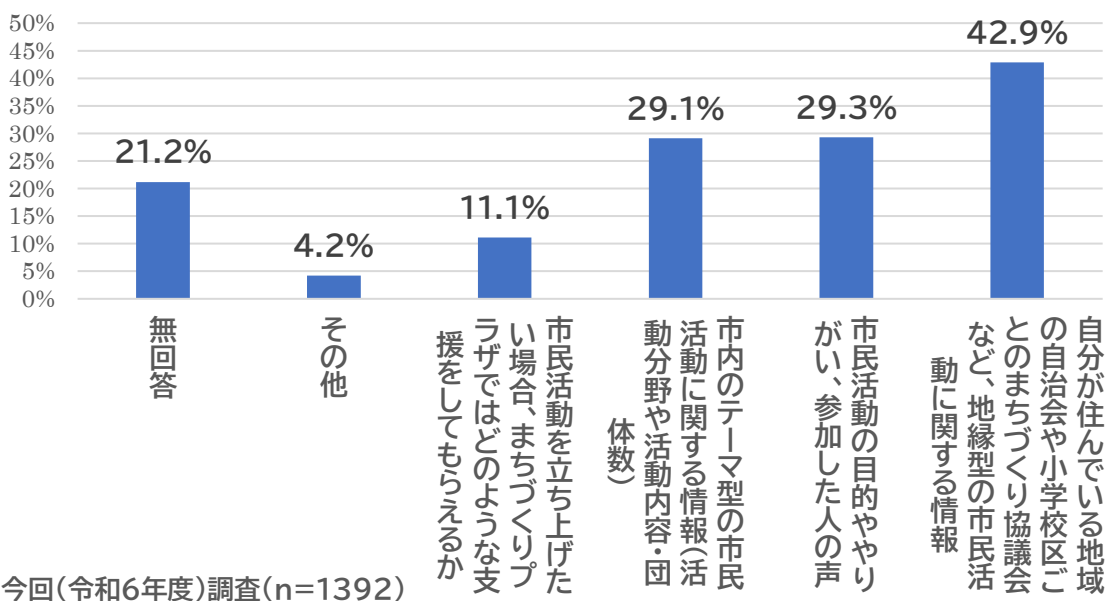
(%)

	無回答	知っていた	知らなかった	回答者数
18歳~19歳	0.0	7.1	92.9	14人
20歳代	0.0	8.8	91.2	57人
30歳代	3.5	12.4	84.1	113人
40歳代	1.4	14.2	84.4	212人
50歳代	2.6	14.0	83.4	271人
60歳代	7.9	22.8	69.3	215人
70歳代	10.4	17.6	72.0	289人
80歳以上	18.6	24.4	57.0	172人
無回答	55.1	8.2	36.7	49人
合計	8.6	16.8	74.6	1392人

1位	2位	3位
----	----	----

問14 市民活動に参加する場合、どのような情報がほしいですか。(〇はいくつでも)

市民活動に参加する場合に必要な情報について、「自分が住んでいる地域の自治会や小学校区ごとのまちづくり協議会など、地縁型の市民活動に関する情報」(42.9%)が最も高く、次いで「市民活動の目的ややりがい、参加した人の声」(29.3%)、「市内のテーマ型の市民活動に関する情報(活動分野や活動内容・団体数)」(29.1%)、「市民活動を立ち上げたい場合、まちづくりプラザではどのような支援をしてもらえるか」(11.1%)と続いています。



無回答	295 人	21.2%
その他	59 人	4.2%
市民活動を立ち上げたい場合、まちづくりプラザではどのような支援をしてもらえるか	155 人	11.1%
市内のテーマ型の市民活動に関する情報(活動分野や活動内容・団体数)	405 人	29.1%
市民活動の目的ややりがい、参加した人の声	408 人	29.3%
自分が住んでいる地域の自治会や小学校区ごとのまちづくり協議会など、地縁型の市民活動に関する情報	597 人	42.9%
総数	1624 人	
回答者数	1392 人	

年代別で見ると、すべての年代で「自分が住んでいる地域の自治会や小学校区ごとのまちづくり協議会など、地縁型の市民活動に関する情報」の割合が最も高くなっています。20歳代、50歳代、60歳代では、それと近い割合で「市民活動の目的ややりがい、参加した人の声」、「市内のテーマ型の市民活動に関する情報」の割合も高くなっています。

(%)

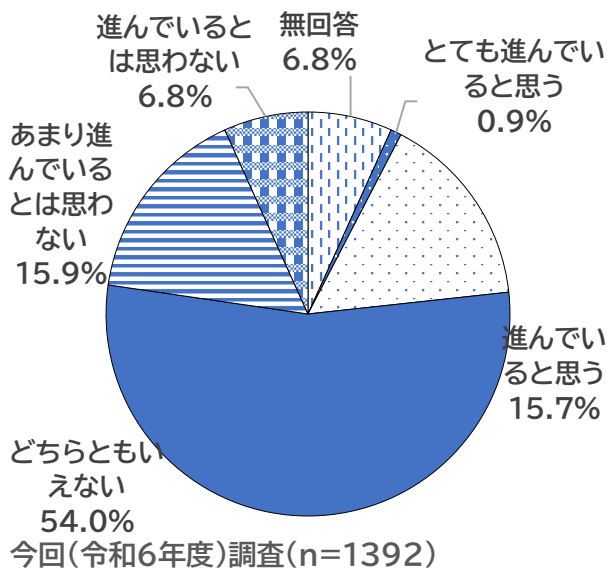
	無回答	自分が住んでいる地域の自治会や小学校区ごとのまちづくり協議会など、地縁型の市民活動に関する情報	市内のテーマ型の市民活動に関する情報(活動分野や活動内容・団体数)	市民活動の目的ややりがい、参加した人の声	市民活動を立ち上げたい場合、まちづくりプラザではどのような支援をしてみたいか	その他	回答者数
18歳～19歳	21.4	42.9	21.4	42.9	7.1	0.0	19人
20歳代	12.3	42.1	38.6	38.6	17.5	1.8	86人
30歳代	11.5	54.9	37.2	30.1	15.0	2.7	171人
40歳代	9.9	52.4	36.8	32.1	17.5	3.3	322人
50歳代	15.1	40.2	35.8	36.5	16.6	3.3	400人
60歳代	14.4	39.5	38.1	39.5	8.8	3.3	309人
70歳代	30.1	42.6	15.6	20.1	5.9	6.2	348人
80歳以上	34.9	39.5	18.6	18.0	4.7	6.4	210人
無回答	65.3	18.4	8.2	10.2	2.0	6.1	54人
合計	21.2	42.9	29.1	29.3	11.1	4.2	1919人

1位	2位	3位
----	----	----

5 「協働」を進めるために

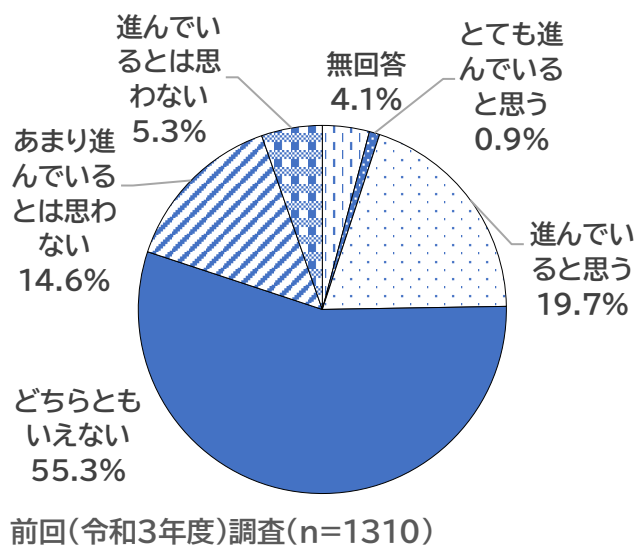
問15 伊丹市において、市民と市による協働は進んでいると思いますか。(〇はいくつでも)

協働の進展度について、「どちらともいえない」(54.0%)が最も高く、「進んでいると感じる一方で、課題もある」もしくは「自分では判断ができない」と感じている回答者が多いことが読み取れます。次いで「あまり進んでいるとは思わない」(15.9%)、「進んでいると思う」(15.7%)、「進んでいるとは思わない」(6.8%)、「とても進んでいると思う」(0.9%)と続いています。



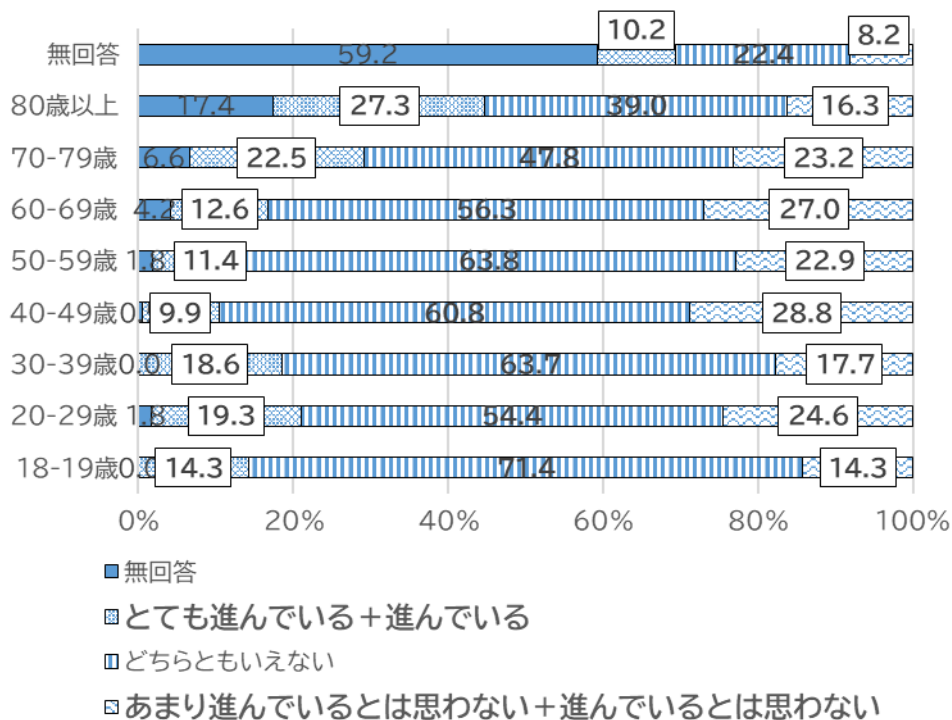
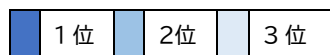
回答内容	人数	割合
無回答	94人	6.8%
とても進んでいると思う	12人	0.9%
進んでいると思う	218人	15.7%
どちらともいえない	752人	54.0%
あまり進んでいるとは思わない	222人	15.9%
進んでいるとは思わない	94人	6.8%
総数	1392人	

令和3年度調査と比較すると、目立った変化は見られず、「どちらともいえない」(54.0%)が1.3ポイント減少し、「あまり進んでいるとは思わない」(15.9%)は4ポイント減少し、「進んでいると思う」(15.7%)は4ポイント減少し、「進んでいるとは思わない」(6.8%)は1.5ポイント増加し、「とても進んでいると思う」(0.9%)は増減なしとなっています。



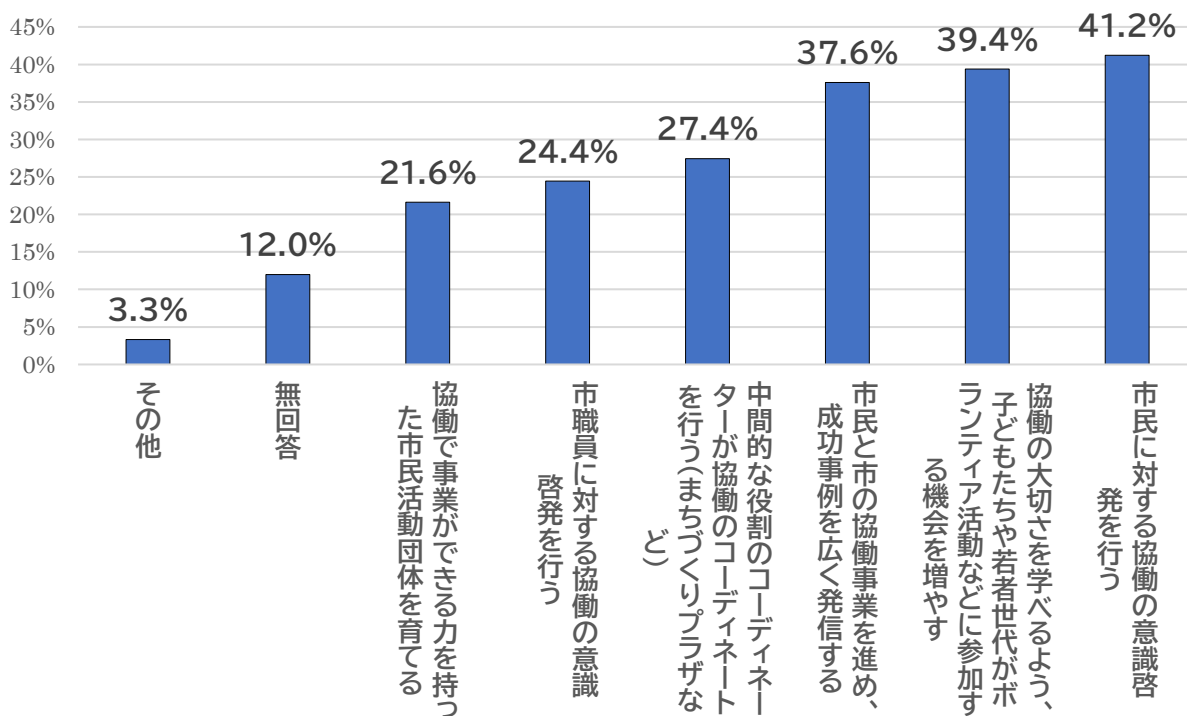
年代別で見ると、どの年代でも「どちらともいえない」の割合が最も高くなっています。「あまり進んでいるとは思わない」と「進んでいるとは思わない」を足した割合よりも「進んでいると思う」

「とても進んでいると思う」を足した割合が上回っているのは、30歳代と80歳以上のみで、他の年代は下回っています。



問16 市民と市による協働を進めるために、何が重要だと思いますか。(〇は3つまで)

協働を進めるために重要なことについては、「市民に対する協働の意識啓発を行う」(41.2%)が最も高く、次いで「協働の大切さを学べるよう、子どもたちや若者世代がボランティア活動などに参加する機会を増やす」(39.4%)、「市民と市の協働事業を進め、成功事例を広く発信する」(37.6%)と続いています。



その他	46人	3.3%	
無回答	167人	12.0%	
協働で事業ができる力を持った市民活動団体を育てる	301人	21.6%	
市職員に対する協働の意識啓発を行う	340人	24.4%	
中間的な役割のコーディネーターが協働のコーディネートを行う(まちづくりプラザなど)	382人	27.4%	
市民と市の協働事業を進め、成功事例を広く発信する	523人	37.6%	
協働の大切さを学べるよう、子どもたちや若者世代がボランティア活動などに参加する機会を増やす	548人	39.4%	
市民に対する協働の意識啓発を行う	574人	41.2%	
総数	2881人		
回答者数	1392人		

年代別でみると、18歳から19歳は「市民に対する協働の意識啓発」の割合が最も高く、次いで「市職員に対する協働の意識啓発」が高くなっています。20歳代は「子どもたちや若者世代の参加機会」の割合が最も高く、次いで「市民と市の協働事業の成功事例発信」が高くなっています。30歳代、70歳以上の世代は「市民に対する協働の意識啓発」の割合が最も高く、次いで「子どもたちや若者世代の参加機会」が高くなっています。40歳代、60歳代は「市民と市の協働事業の成功事例発信」の割合が最も高く、次いで「市民に対する協働の意識啓発」が高くなっています。50歳代は「市民に対する協働の意識啓発」が最も高く、次いで「市民と市の協働事業の成功事例発信」が高くなっています。」

(%)

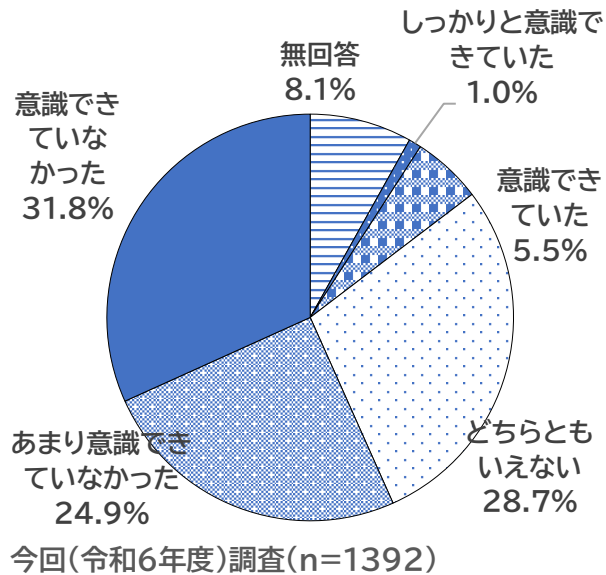
	無回答	市職員に対する協働の意識啓発を行う	市民に対する協働の意識啓発を行う	中間的な役割のコーディネーターが協働のコーディネートを行う(まちづくりプラザなど)	協働の大切さを学べるよう、子どもたちや若者世代がボランティア活動などに参加する機会を増やす	協働で事業ができる力を持った市民活動団体を育てる	市民と市の協働事業を進め、成功事例を広く発信する	その他	回答者数
18歳~19歳	0.0	50.0	64.3	14.3	42.9	28.6	14.3	0.0	30人
20歳代	10.5	22.8	31.6	26.3	47.4	35.1	40.4	5.3	125人
30歳代	2.7	29.2	50.4	35.4	45.1	27.4	41.6	2.7	265人
40歳代	5.7	28.8	38.2	36.3	36.3	23.6	39.6	4.7	452人
50歳代	7.7	25.8	43.2	32.8	38.4	19.6	39.5	3.3	570人
60歳代	6.0	22.3	41.9	30.7	40.0	22.8	48.4	3.3	463人
70歳代	12.1	23.2	42.9	19.4	42.2	20.1	34.9	2.8	571人
80歳以上	25.0	22.1	41.9	20.3	39.0	19.2	29.7	2.3	343人
無回答	69.4	6.1	12.2	4.1	16.3	6.1	8.2	4.1	62人
合計	12.0	24.4	41.2	27.4	39.4	21.6	37.6	3.3	2881人

1位	2位	3位
----	----	----

6 「熟議」を進めるために

問17 これまで、あなたが地域の身近な問題について、地域住民や行政等と話し合いを進める中で、熟議することを意識できていましたか。(〇は1つ)

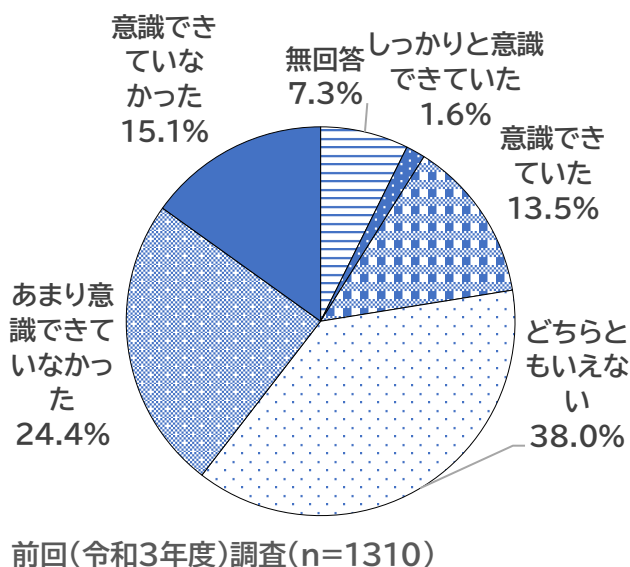
熟議を意識できていたかについては、「意識できていなかった」(31.8%)が最も高く、次いで「どちらともいえない」(28.7%)、「あまり意識できていなかった」(24.9%)、「意識できていた」(5.5%)、「しっかりと意識できていた」(1.0%)と続いています。



今回調査
(n=1392)

無回答	113人	8.1%
しっかりと意識できていた	14人	1.0%
意識できていた	77人	5.5%
どちらともいえない	399人	28.7%
あまり意識できていなかった	347人	24.9%
意識できていなかった	442人	31.8%
総数	1392人	

令和3年度調査と比較すると、「意識できていた」(13.5%)が8%減少し、「意識できていなかった」(31.8%)が16.7%増加し、「どちらともいえない」が9.3%減少しています。



年代別でみると、どの年代でも「意識できていなかった」「あまり意識できていなかった」の割合が高くなっています。

(%)

	無回答	しつかりと意識できていた	意識できていた	どちらともいえない	あまり意識できていなかった	意識できていなかった	回答者数
18歳～19歳	0.0	0.0	7.1	35.7	14.3	42.9	14人
20歳代	0.0	1.8	3.5	36.8	24.6	33.3	57人
30歳代	0.9	3.5	3.5	33.6	16.8	41.6	113人
40歳代	2.8	0.5	6.1	31.1	23.6	35.8	212人
50歳代	2.6	0.4	5.5	36.2	21.0	34.3	271人
60歳代	4.2	0.5	5.1	25.1	30.2	34.9	215人
70歳代	8.7	1.0	4.2	24.9	30.1	31.1	289人
80歳以上	19.8	1.2	10.5	22.7	27.3	18.6	172人
無回答	63.3	2.0	2.0	12.2	12.2	8.2	49人
合計	8.1	1.0	5.5	28.7	24.9	31.8	1392人

1位	2位	3位
----	----	----

Ⅲ 集計結果（設問間クロス集計）

① まちづくり基本条例の認知度と運営者の一員としてイベント等に参加したことがある者の相関性（問1－問10クロス）

	無回答	も学校、地域の活動（PTA活動、子育てサークル活動など）	生涯学習に関する活動（土曜学習、各種趣味・サークル活動など）	福祉、健康、医療に関する活動（こども食堂、地域ふれあい福祉サロンなど）	文化、芸術、スポーツに関する活動（スポーツクラブ等各種文化・スポーツイベントなど）	環境保全、美化に関する活動（地域清掃活動など）	地域防犯に関する活動（地域パトロール、児童等の見守り活動など）	地域防災に関する活動（自主防災訓練など）	地域住民等の親睦を図る活動（お祭り、もちつき大会等各種イベントなど）	その他
知っている	11.1	77.8	33.3	66.7	44.4	66.7	55.6	55.6	77.8	0.0
読んだことがある	16.0	46.8	19.1	20.2	26.6	44.7	39.4	31.9	46.8	3.2
名称を見聞きしたことはある	21.7	40.7	9.7	7.0	15.1	33.4	27.9	20.4	38.6	7.6
今回初めて聞いた	31.4	32.3	7.1	4.8	12.6	20.5	16.5	9.3	27.9	11.1
無回答	71.4	14.3	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	14.3

② 情報の共有の進捗度と充実を希望する情報共有手段の相関性（問7－問8クロス）

	無回答	市広報紙「広報伊丹」	支所・分室や図書館などに配架される 刊行物や掲示物など	まちづくり出前講座や各課が実施する 講座・イベントなど	市ホームページやLINE、 Twitter、Facebook、X(旧 Twitter)、YouTubeな どのSNS等の電子媒体の活用	コミュニティ掲示板や回覧板など、自 治会等を通じた情報提供	市民参加のワークショップや意見交換 会など、市の施策や計画等に対して自 由に意見が言える場	市が持っているさまざまな情報のピン ターネット等を通じた公開（オープン データ）	その他
とても進んでいる	0.0	87.5	12.5	25.0	12.5	50.0	18.8	25.0	12.5
進んでいる	2.7	82.2	23.9	20.5	29.0	40.9	10.8	22.4	1.5
どちらともいえない	3.6	73.6	11.8	14.1	35.0	26.4	8.3	29.1	3.1
あまり進んでいない	1.1	68.3	15.8	18.5	37.7	25.7	9.8	37.7	3.4
進んでいない	6.6	52.9	11.6	10.7	28.9	14.9	4.1	32.2	12.4
無回答	31.9	57.5	9.7	13.3	12.4	22.1	2.7	11.5	1.8

③ 運営者の一員として参加したことがある市民活動と市民活動に必要とする情報内容の相関性
(問 10－問 14 クロス)

(%)

	無回答	自分が住んでいる地域の自治会や小学校区ごとのまちづくり協議会など、地縁型の市民活動に関する情報	市内のテーマ型の市民活動に関する情報（活動分野や活動内容・団体数）	市民活動の目的ややりがい、参加した人の声	市民活動を立ち上げたい場合、まちづくりプラザではどのような支援をしてもらえるか	その他
学校、地域の子育て支援に関する活動(PTA活動、子ども会、子育てサークル活動など)	12.7	52.5	31.6	30.0	13.5	2.8
生涯学習に関する活動(土曜学習、各種趣味・サークル活動など)	7.4	62.3	38.5	35.2	18.9	3.3
福祉、健康、医療に関する活動(こども食堂、地域ふれ愛福祉サロンなど)	9.4	63.5	33.3	26.0	15.6	1.0
文化、芸術、スポーツに関する活動(スポーツクラブ21、各種文化・スポーツ啓発活動など)	11.0	52.5	34.5	33.5	17.5	2.0
環境保全、美化に関する活動(地域清掃活動など)	10.6	55.8	36.1	32.5	11.9	3.3
地域防犯に関する活動(地域防犯パトロール、児童等の見守り活動など)	8.8	56.6	33.7	30.6	11.4	3.4
地域防災に関する活動(自主防災訓練など)	9.1	61.4	37.6	28.9	10.2	3.0
地域住民等の親睦を図る活動(お祭り、もちつき大会等各種イベントなど)	11.8	52.6	33.0	31.8	12.7	4.0
その他	9.0	30.8	27.1	29.3	13.5	21.1
無回答	42.7	29.6	26.2	26.2	8.5	2.1

④ 市民活動への参加希望と市民活動に必要とする情報内容の相関性 (問 11－問 14 クロス)

(%)

	無回答	自分が住んでいる地域の自治会や小学校区ごとのまちづくり協議会など、地縁型の市民活動に関する情報	市内のテーマ型の市民活動に関する情報（活動分野や活動内容・団体数）	市民活動の目的ややりがい、参加した人の声	市民活動を立ち上げたい場合、まちづくりプラザではどのような支援をしてもらえるか	その他
積極的に参加したい	14.3	61.9	42.9	52.4	23.8	4.8
機会があれば参加したい	4.6	58.7	44.0	37.0	17.7	1.6
参加したいが難しい	15.2	49.0	30.1	31.5	10.7	3.5
参加したいと思わない	30.3	29.5	20.0	24.0	7.4	7.4
無回答	78.7	14.7	6.7	8.0	2.7	0.0

⑤ 市民活動への参加が困難な理由と市民活動に必要とする情報内容の相関性（問 12－問 14 クロス）

(%)

	無回答	自分が住んでいる地域の自治会や小学校区ごとのまちづくり協議会など、地縁型の市民活動に関する情報	市内のテーマ型の市民活動に関する情報・団体数	市民活動の目的ややりがい、参加した人の声	市民活動を立ち上げたい場合、まちづくりプラザではどのような支援をしてもらえるか	その他
無回答	15.0	52.5	39.2	33.9	15.7	1.8
仕事、家事、育児、介護、学業等で忙しく、時間がいないから	16.7	42.0	31.9	32.1	12.6	4.1
体力や健康に自信がないから	30.7	38.7	21.5	24.0	7.1	4.1
どのような活動があるか分からないから	19.0	40.0	25.0	41.0	16.0	7.0
地域に知り合いがないからまたは誘われないから	23.7	29.9	26.8	33.0	15.5	6.2
責任が重くて大変そうだから	19.3	48.1	26.7	28.9	12.8	3.7
人間関係が負担に感じるから	21.4	36.6	30.5	31.7	9.5	4.6
参加の方法が分からないから	19.4	41.7	23.3	34.0	14.6	5.8
関心や興味が持てないから	34.2	18.4	18.4	26.3	9.2	10.5
その他	31.0	28.6	21.4	28.6	9.5	16.7

⑥ 協働の進展度から見た協働を進めるために重要なこと（問 15－問 16 クロス）

(%)

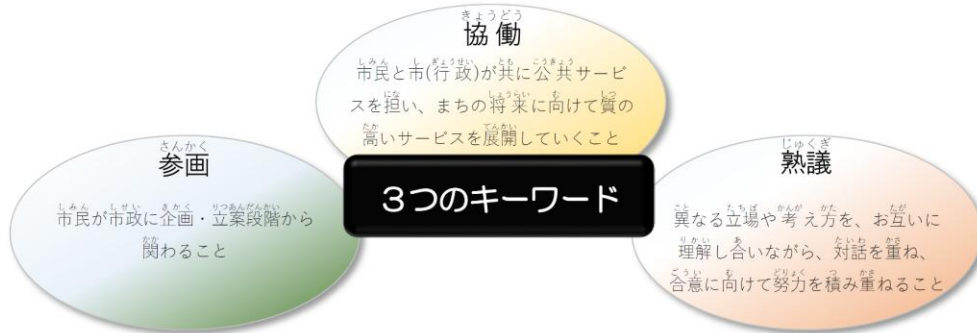
	無回答	市職員に対する協働の意識啓発を行う	市民に対する協働の意識啓発を行う	中間的な役割のコーディネーターが協働の（まちづくりプラザなど）	活動などに参加する機会を増やす	協働の大切さを学ぶ若者世代がボランティア活動などに参加する機会を増やす	協働で事業ができる力を育てる	市民と市の協働事業を進め、成功事例を広く発信する	その他
とても進んでいると思う	25.0	33.3	41.7	33.3	58.3	16.7	8.3	0.0	
進んでいると思う	4.6	22.9	51.4	29.8	56.9	25.7	34.9	0.9	
どちらともいえない	7.3	25.3	42.1	29.2	41.0	22.8	40.7	3.2	
あまり進んでいるとは思わない	5.0	31.8	48.6	30.0	36.4	25.5	43.6	3.6	
進んでいるとは思わない	10.6	22.3	31.9	24.5	26.6	16.0	38.3	9.6	
無回答	83.0	5.3	4.3	5.3	4.3	1.1	8.5	3.2	

IV 送付物

1. 調査票

「伊丹市まちづくり基本条例」の見直し検討に関する市民アンケート

伊丹市では、市民の提言を受けて、力強い市民自治のまちを自指し、平成15(2003)年に「伊丹市まちづくり基本条例（以下、「まちづくり基本条例」）」を制定しました。（「まちづくり基本条例」の詳細は別紙の条例をご覧ください）
「まちづくり基本条例」には、「まちづくりのルール」が書かれており、3つのキーワードとして、「参画」、「協働」、「熟議」があります。



まちづくりに関わる人が、対等な立場で色々な考えを出し合い、それぞれの役割を果たすことを通じて、まちの人同士の豊かなつながりが広がっていき、みんながまちづくりの基本的なことを知り、みんなで作るまちを実現していくことが「まちづくり基本条例」がめざす伊丹市のまちの姿です。

「まちづくり基本条例」は、4年以内ごとに見直しを行うこととしており、条例が制定されてから6回目の見直し検討を令和6年度に実施いたします。このアンケートは見直し検討時の参考資料として活用いたしますので、ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

- 「まちづくり基本条例」について -



平成15(2003)年に制定され、これまで5回の見直し検討を実施してきました。「まちづくり基本条例」について、お聞きします。

問1. 「まちづくり基本条例」を知っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 内容をよく知っている
2. 読んだことはある
3. 読んだことはないが、名称を見聞きしたことはある
4. 今回はじめて知った



条例の普及・啓発を行うために市民と市で構成された「まちづくり基本条例PR委員会」で内容が検討され、作成された啓発用のパンフレットです。
このパンフレットのイラストは、兵庫県立伊丹北高等学校美術部の皆さんが描いてくださいました。

問2. 「まちづくり基本条例」の内容で知っているものはどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 熟議
2. コミュニティ
3. 地域自治組織
4. 対話の場
5. 総合計画
6. 行政評価
7. 学習の機会の提供（まちづくり出前講座や市民まちづくりプラザにおける市民団体の支援）
8. 伊丹市参画協働推進委員会
9. その他
具体的に：
[]

- 「^{さんかく}参画^{すす}」を進めるために ① -



「まちづくり基本条例」において重要なことの1つ目に、「参画」があります。

参画とは、**市民が市政に企画・立案段階から関わる**ことをいいます。



実は、今皆さんが答えられているこのアンケートも市政への参画の1つなんです。

アンケート以外にも、伊丹市には皆さんが市政に参画するためのさまざまな仕組みがあります。



問3. あなたが知っている「市政に参画する仕組み」はどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 審議会等の市民公募委員
2. パブリックコメント
3. 市民参加のワークショップや意見交換会など、市の施策や計画等に対して自由に意見が言える場
4. 市ホームページ等による「市民の声」で意見・質問
5. 市の実施するアンケートや市民意識調査など
6. 知っている仕組みはない

問4. あなたがこれまで参画したことがあるものはどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 審議会等の市民公募委員
2. パブリックコメント
3. 市民参加のワークショップや意見交換会など、市の施策や計画等に対して自由に意見が言える場
4. 市ホームページ等による「市民の声」で意見・質問
5. 市の実施するアンケートや市民意識調査など
6. その他
（具体的に： _____）

問5. 問4の選択肢にある仕組みを活用し、市政に参画したいと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|----------------|---------------------------|
| 1. 既に参画している | } 1～3を選択された方は、問7にお進みください。 |
| 2. 積極的に参画したい | |
| 3. 機会があれば参画したい | |
| 4. 参画したいが難しい | } 4～5を選択された方は、問6にお進みください。 |
| 5. 参画したいとは思わない | |

問6. 問5で「4. 参画したいが難しい」、「5. 参画したいとは思わない」を選択された方にお聞きします。その理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 仕事、家事、育児、介護、学業等で忙しく、時間がないから
2. 体力や健康に自信がないから
3. 市政の内容がよく分からないから
4. 地域に知り合いがないからまたは誘われないから
5. 責任が重くて大変そうだから
6. 人間関係が負担に感じるから
7. 参画の方法が分からないから
8. 関心や興味を持ってないから
9. 参画しても、自分の意見が市政に反映されるとは思わないから
10. その他
（具体的に： _____）



- 「参画」を進めるために ② -



参画を進めるためには、地域の課題や市政に関する情報を共有できる仕組みがあることが欠かせません。市民に対して市が積極的に情報を公開し、発信するとともに、市民と市がお互いにコミュニケーションをとりながら「情報の共有」を活発にしていることが大切です。

問7. 伊丹市での情報の共有は進んでいると思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. とても進んでいると思う
2. 進んでいると思う
3. どちらともいえない
4. あまり進んでいるとは思わない
5. 進んでいるとは思わない

問8. あなたが「市民と市が情報を共有する方法」の中で充実してほしいものはどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 市広報紙「広報伊丹」
2. 支所・分室や図書館などに配架される刊行物や掲示物など
3. まちづくり出前講座や各課が実施する講座・イベントなど
4. 市ホームページやLINE、Facebook、X（旧Twitter）、YoutubeなどのSNS等の電子媒体の活用など
5. コミュニティ掲示板や回覧板など、自治会等を通じた情報提供
6. 市民参加のワークショップや意見交換会など、市の施策や計画等に対して自由に意見が言える場
7. 市が持っているさまざまな情報のインターネット等を通じた公開（オープンデータ）
8. その他
具体的に：
()

※…SNSとは、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(Social Networking Service)の略称で、インターネット上での情報発信手法の1つです。

- 「市民活動」を進めるために ① -



「市民活動」には、各地域ごとに行っている「地縁型の活動」と、地域を限定せず、何らかのテーマに沿って活動される「テーマ型の活動」があり、どちらも非営利で公益的なものです。

地縁型の活動には、お祭りや防災訓練、清掃活動などがあり、自治会や地域自治組織が行っています。テーマ型の活動には、福祉、子育て、環境などさまざまな分野のテーマに沿って行われているものがあり、市民団体やNPOが行っています。



市民活動は、ボランティアグループやNPO、地縁組織などさまざまな形態の団体によって担われています。多様化、複雑化する地域課題や、特に行政だけでは対応できない分野は、行政とさまざまな主体が力を合わせて取り組むことが求められています。

このような市民活動に運営者の一員として参加することも参画につながる第一歩といえます。



問9. あなたが知っている市民活動はどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 学校、地域の子育て支援に関する活動
(PTA活動、子ども会、子育てサークル活動など)
2. 生涯学習に関する活動
(土曜学習、各種趣味・サークル活動など)
3. 福祉、健康、医療に関する活動
(こども食堂、地域ふれ愛福祉サロンなど)
4. 文化、芸術、スポーツに関する活動
(スポーツクラブ21、各種文化・スポーツ啓発活動など)
5. 環境保全、美化に関する活動 (地域清掃活動など)
6. 地域防犯に関する活動
(地域防犯パトロール、児童等の見守り活動など)
7. 地域防災に関する活動 (自主防災訓練など)
8. 地域住民等の親睦を図る活動
(お祭り、もちつき大会等各種イベントなど)
9. その他
具体的に：
()

問10. あなたがこれまで「企画・運営の担い手としてかかわったことがある市民活動」はどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 学校、地域の子育て支援に関する活動
(PTA活動、子ども会、子育てサークル活動など)
2. 生涯学習に関する活動
(土曜学習、各種趣味・サークル活動など)
3. 福祉、健康、医療に関する活動
(こども食堂、地域ふれ愛福祉サロンなど)
4. 文化、芸術、スポーツに関する活動
(スポーツクラブ21、各種文化・スポーツ啓発活動など)
5. 環境保全、美化に関する活動 (地域清掃活動など)
6. 地域防犯に関する活動
(地域防犯パトロール、児童等の見守り活動など)
7. 地域防災に関する活動 (自主防災訓練など)
8. 地域住民等の親睦を図る活動
(お祭り、もちつき大会等各種イベントなど)
9. その他
具体的に：

問11. 今後、「市民活動に運営者の一員として参加したい」と思っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|----------------|--------------------------------|
| 1. 積極的に参加したい | } 1～2を選択された方は、
問13にお進みください。 |
| 2. 機会があれば参加したい | |
| 3. 参加したいが難しい | } 3～4を選択された方は、
問12にお進みください。 |
| 4. 参加したいと思わない | |

問12. 問11で「3. 参加したいが難しい」、「4. 参加したいと思わない」を選択された方にお聞きします。その理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 仕事、家事、育児、介護、学業等で忙しく、時間がないから
2. 体力や健康に自信がないから
3. どのような活動があるか分からないから
4. 地域に知り合いがないからまたは誘われないから
5. 責任が重くて大変そうだから
6. 人間関係が負担に感じるから
7. 参加の方法が分からないから
8. 関心や興味が持てないから
9. その他
具体的に：

- 「市民活動」を進めるために ② -



伊丹市には、市民活動を支援する施設として「伊丹市立市民まちづくりプラザ」(以下、市民まちづくりプラザ)があります。



1階に市民まちづくりプラザが入るスワンホール

市民まちづくりプラザで行っている内容

- ・市民活動に関する各種相談対応
- ・市民活動に役立つ講座
(パソコン講座、チラシ作成講座、SNS等活用講座など)
- ・市民活動に役立つ情報提供
(助成金・補助金情報、各種市民活動事例など)
- ・市民活動団体間のコーディネート(交流会など)
- ・その他まちづくり全般に関する情報提供

問13. 市民まちづくりプラザがどのような施設か、このアンケート以前に知っていましたか。

1. 知っていた
2. 知らなかった

問14. 市民活動に参加する場合、どのような情報がほしいですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 自分が住んでいる地域の自治会や小学校校区ごとのまちづくり協議会など、地縁型の市民活動に関する情報
2. 市内のテーマ型の市民活動に関する情報(活動分野や活動内容、団体数)
3. 市民活動の目的ややりがい、参加した人の声
4. 市民活動を立ち上げたい場合、まちづくりプラザではどのような支援をもらえるか
5. その他
具体的に：

- 「協働」を進めるために -



「まちづくり基本条例」において重要なことの2つ目に、この「協働」があります。

協働とは、市民(※)と市がお互いに信頼し合い、それぞれの役割と責任を分担しながら、伊丹市を良くするための活動をするをいいます。



※…ここでの市民は、協働の主体(担い手)として市民活動団体、NPO法人、地域自治組織、企業等のことを指します。



伊丹市では、これまで市民との協働により、多くの課題を解決してきました。一部ではありますが、以下のとおり、協働の事例を紹介します。

協働の事例

- ・伊丹市版エンディングノートの作成及び啓発
- ・食品ロス削減のためのフードドライブ事業
- ・外国人と日本人の交流事業
- ・ジェンダー視点を取り入れた防災講座
- ・相続、空き家まつわる相談事業

問15. 伊丹市において、市民と市による協働は進んでいると思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. とても進んでいると思う
2. 進んでいると思う
3. どちらともいえない
4. あまり進んでいるとは思わない
5. 進んでいるとは思わない

問16. 市民と市による協働を進めるために、何が重要だと思いますか。3つまで選んでください。

1. 市職員に対する協働の意識啓発を行う
2. 市民に対する協働の意識啓発を行う
3. 中間的な役割のコーディネーターが協働のコーディネートを行う(まちづくりプラザなど)
4. 協働の大切さを学べるよう、子どもたちや若者世代がボランティア活動などに参加する機会を増やす
5. 協働で事業ができる力を持った市民活動団体を育てる
6. 市民と市の協働事業を進め、成功事例を広く発信する
7. その他
具体的に:

- 「熟議」を進めるために -



「まちづくり基本条例」において、重要なことの3つ目に、「熟議」があります。

熟議とは、異なる立場や考え方をお互い理解しながら、対話を重ね、合意に向けて努力を積み重ねることをいいます。



問17. これまで、あなたが地域の身近な問題について、地域住民や行政等と話し合いを進める中で、熟議することを意識できていましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. しっかりと意識できていた
2. 意識できていた
3. どちらともいえない
4. あまり意識できていなかった
5. 意識できていなかった

「まちづくり基本条例」では、市民の参画と協働のまちづくりを進めるためには、市民も市も、熟議を行うことが重要としています。皆さんも、積極的に熟議しましょう!



- その他 -

問18. 「まちづくり基本条例」に、伊丹市の自治の基本的なルールとして、加えた方がいいと思われる内容がありましたら、ご記入ください。

問19. 「まちづくり基本条例」について、何かご意見がありましたら、ご記入ください。

- ご回答者様について -

問20. あなたのご年齢について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 18～19歳 | 2. 20～29歳 |
| 3. 30～39歳 | 4. 40～49歳 |
| 5. 50～59歳 | 6. 60～69歳 |
| 7. 70～79歳 | 8. 80歳以上 |

アンケートは以上です。
ご協力ありがとうございました。
アンケートはそのまま同封の返信用封筒（切手は不要です）に入れて、ご返送ください。
アンケートはP.1～P.6の合計6ページ分ございますので、封入される際、漏れがないよう、ご注意ください。



○伊丹市まちづくり基本条例(平成15年3月27日条例第1号)

地方分権の一層の推進によって訪れる新たな時代、地方主権時代にふさわしい都市の豊かな個性や魅力を創出するとともに、すべての市民が伊丹のまちに住むことを誇りとし、いきいきと活動でき、生きる喜びを共に感じられる成熟都市を創造していかなければなりません。

その基盤は、自治の主権者である市民一人ひとりが市政に関心を持ち、自らの意思によってまちづくりに参加する、あるいは、自らがまちづくりの担い手となって活動するという、自主・自律の精神によってつくり上げる市民自治にあります。

市民も市も、これまでのまちづくりに対する意識を改革し、まちづくりの機軸を行政主導から市民の参画と協働へと大きく転換していかなければなりません。

この市民の参画と協働のまちづくりを進めるためには、市民も市も、異なる立場や考え方をお互い理解し合いながら、対話を重ね、合意に向けて努力を積み重ねるという熟議を行うことが重要です。

この熟議を基本に、先人が永年培ってきた歴史、文化、風土や良好なコミュニティを土台として、市民と市が、パートナーシップを確立し、適切に役割と責任を分担し、補完し合い、協力して、まちづくりに積極的に取り組むことが大切です。

こうした市民の参画と協働によるまちづくりを推進し、力強い市民自治を実現するために、この条例を制定します。

(目的)

第1条 この条例は、市民の参画と協働によるまちづくりに関する基本的な事項を定めることにより、自治の主権者である市民の主体的なまちづくりを推進し、地方自治の本旨に基づく市民自治の実現を図ることを目的とする。

(基本理念)

第2条 まちづくりは、市民が自らの意思によって参画し、市民と市が相互の信頼関係に基づいて、それぞれ果たすべき役割と責任を分担し、補完し合い、協力して進めなければならない。

2 市民と市は、対等なパートナーとして、まちづくりに取り組むものとする。

3 市は、その保有する情報を市民と共有しなければならない。

4 市民と市、市民相互は、参画と協働によるまちづくりの推進にあたり、熟議(異なる立場や考え方をお互い理解し合いながら、対話を重ね、合意に向けて努力を積み重ねることをいう。以下同じ。)を基本とする。

(市民の権利)

第3条 市民は、等しくまちづくりにかかわる権利を有する。

(市民の責務)

第4条 市民は、第2条の基本理念にのっとり、自主的かつ自律的な意思に基づいて、積極的にまちづくりに参画し、又は自らがまちづくりの主体となって活動するとともに、市と協働するよう努めなければならない。

2 市民は、お互いを尊重し、支え合いながら、熟議によりまちづくりの推進に努めなければならない。

3 市民は、それぞれのまちづくり活動の情報を交換することによって、お互いに連携してその活動を推進するよう努めなければならない。

(議会の役割及び責務)

第5条 議会は、第2条の基本理念にのっとり、市民を代表する意思決定機関として、公正性及び透明性を確保しつつ、その権限を行使しなければならない。

2 議会は、市民の意見が市政に適切に反映されているかどうか及び行政が適正に執行されているかどうかについて監視し、評価しなければならない。

3 議会は、市政を調査し、その結果を踏まえて条例を制定するなど、政策形成機能の強化を図らなければならない。

4 議会は、議会運営に関して積極的に市民に情報を公開するとともに、意思決定の過程を明らかにし、市民への説明責任を果たすなど、開かれた議会運営に努めなければならない。

(議員の役割及び責務)

第6条 議員は、市民の代表者としてその負託に応え、公正かつ誠実に職務を遂行するとともに、市民全体のために行動しなければならない。

2 議員は、自らの責任を認識し、高い倫理観を保持し、研さんに努め、行政監視及び政策立案のための能力の向上に努めなければならない。

(市長の役割及び責務)

第7条 市長は、第2条の基本理念にのっとり、市民の市政への参画の機会を確保し、市民と協働して、まちづくりを推進するよう努めなければならない。

2 市長は、市民の代表者としてその負託に応え、公正かつ誠実に職務を遂行するとともに、市民全体のために市政を運営しなければならない。

3 市長は、市政について市民に説明する責任を果たすよう努めなければならない。

4 市長は、市民にとって分かりやすい組織及び市民ニーズに的確に対応できる体制を整備するとともに、職員の資質の向上に努めなければならない。

(市の職員の役割及び責務)

第8条 市の職員は、公共サービスの提供に従事する者として、第2条の基本理念にのっとり、公正かつ誠実に職務を遂行しなければならない。

2 市の職員は、効率的に職務に取り組まなければならない。

3 市の職員は、職務の遂行に必要な知識及び技能の向上に努めなければならない。

(情報の共有)

第9条 市は、市民の知る権利を尊重しなければならない。

2 市は、その保有する情報を市民と共有するため、市民に分かりやすくその情報を提供するとともに、市民が迅速かつ容易に情報を得られるよう多様な媒体の活用その他総合的な情報提供の体制整備に努めるものとする。

3 審議会等は、市民に会議を原則として公開するよう努めるものとする。

4 市は、個人の権利及び利益が侵害されることのないように、個人情報の収集、利用、提供、管理等について、必要な措置を講じなければならない。

(コミュニティ)

第10条 市民は、まちづくりの土台であるコミュニティを守り、育てるよう努めるものとする。

2 市民は、安心して心豊かに暮らすことができるよう、自主的にコミュニティ活動に取り組むよう努めるものとする。

(地域自治組織)

第10条の2 市民は、市民による主体的なまちづくりの推進を図るため、概ね小学校の通学区を単位として、当該区域内の住民をはじめとする多様な主体で構成される地域自治組織を設立することができる。

2 市は、地域自治組織の設立及び運営について、必要な支援

を行うものとする。

3 市長は、地域自治組織を、一地域につき一団体に限り、認定することができる。

4 前項の認定を受けた地域自治組織は、構成員の参画を保障するとともに、民主的で透明性のある運営を行うものとする。

5 地域自治組織に関し必要な事項は、別に条例で定める。

(対話の場の設置)

第11条 市は、まちづくりの課題について市民の意見を求める必要があると認めるときは、市民相互又は市民と市による対話の場を設置することができる。

2 市民及び市は、前項による対話を行うときは、異なる立場や考え方を互いに理解し合うよう努めるものとする。

3 市民がまちづくりに関する情報を交換し、又はまちづくりの課題について熟議を行うために対話の場を設置する場合において、市民からの申出があるときは、市は、その運営に必要な技術的支援を行うことができる。

(市民意見表明制度の実施)

第12条 市は、基本的な政策等を策定するとき、事前に案を公表し、市民の意見を求めるものとする。

2 市は、前項の規定により提出された意見に対する市の考え方を公表するものとする。

(総合計画の策定)

第12条の2 市は、目指すべき市の将来像及びまちづくりの目標を定めるとともに、それらを実現するための方法や手段を総合的かつ体系的に明らかにするため、総合計画を定めるものとする。

2 総合計画は、行政運営の基本的な方針を定める基本構想、その実現に向けた分野別の取組を定める基本計画及び具体的な事業を定める実施計画により構成する。

3 市長は、総合計画のうち、基本構想及び基本計画を定めようとするときは、議会の議決を得るものとする。

4 総合計画は、市民の参画により定めるものとする。

(行政評価の実施)

第13条 市は、効率的かつ効果的に市政運営を行うとともに市政に関して市民に説明責任を果たすため、その実施し、又は実施しようとする施策及び事務事業の評価を行うものとする。

2 市は、前項の評価の結果について、市民に分かりやすく公表するとともに、市民が意見を述べる機会を設けるよう努めるものとする。

3 市は、第1項の評価の結果を、施策及び事務事業の見直しに活用するものとする。

(審議会等の委員)

第14条 市長その他の執行機関は、その所管する審議会等の委員の構成に市民を積極的に加えるよう努めなければならない。

2 前項の規定により市民を審議会等の構成員にしたときは、当該市民委員については公募により選任するよう努めるものとする。

3 市長その他の執行機関は、市民が審議会等へ積極的に参画できるよう配慮しなければならない。

(学習の機会の提供その他の支援)

第15条 市は、市民がまちづくりに関し理解を深めるために必要な学習の機会を設けるよう努めるものとする。

2 前項に掲げるもののほか、市は、市民のまちづくり活動を促進するため必要な助成その他の支援を行うよう努めるものとする。

(市民投票の実施)

第16条 市長は、広く市民の意思を直接問う必要があると認めるときは、市民投票を実施することができる。

2 前項の市民投票の実施に関し、投票に付すべき事項、投票資格者、投票の期日、投票の方法、投票結果の公表その他必要な手続については、その都度条例で定める。

(国、他の地方公共団体及び関係機関との連携)

第17条 市は、共通する課題又は広域的課題を解決するため、国、他の地方公共団体及び関係機関と対等な立場で連携し、協力するよう努めるものとする。

(伊丹市参画協働推進委員会)

第18条 市に、伊丹市参画協働推進委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項を調査審議するとともに、市長に対し意見を述べることができる。

(1) 市民の参画と協働の推進に関する施策の実施状況及び成果に関すること。

(2) この条例の見直しその他市民の参画と協働によるまちづくりに関する重要事項

3 委員会は、委員10人以内で組織する。

4 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

(1) 市民

(2) 関係団体を代表する者

(3) 学識経験者

5 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 委員は、再任されることができる。

7 委員会に、特別の事項を調査審議させるため必要があるときは、臨時委員を置くことができる。

8 臨時委員は、市長が委嘱する。

9 臨時委員は、当該特別の事項に関する調査審議が終了したときは、解任されるものとする。

10 前各項に定めるもののほか、委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

(この条例の位置付け)

第19条 この条例は、まちづくりの基本原則であり、市は、他の条例、規則等を定める場合においては、この条例に定める事項を最大限に尊重しなければならない。

付 則

(施行期日)

1 この条例は、平成15年10月1日から施行する。

(見直し)

2 市は、この条例の施行の日から4年以内ごとに、市民の参画と協働によるまちづくりの推進状況について検討を加え、その結果に基づいて、見直しを行うものとする。

付 則

この条例は、平成25年11月1日から施行する。

付 則

この条例は、平成27年4月1日から施行する。

付 則

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

付 則

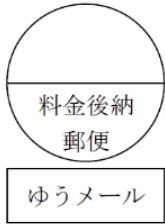
(施行期日)

1 この条例は、平成30年6月1日から施行する。(後略)

付 則(平成30年3月28日条例第12号)

この条例は、平成30年4月1日から施行する。

2. 封筒



いたみし きほんじょうれい みなお けんとう かん しみん あんけーと 「伊丹市まちづくり基本条例」の見直し検討に関する市民アンケート



いたみし いけん おし
伊丹市のまちづくりについて、あなたの意見を教えてください。

れいわ ねん がつ にち かいとう
令和6年9月19日までにご回答ください

たいせつなおねがい

と あ さき いたみし すいしんか でんわ
問い合わせ先：伊丹市まちづくり推進課 電話：072-780-3533



令和6年度
「伊丹市まちづくり基本条例」の
見直し検討に関する市民アンケート
報告書

令和7（2025）年3月

伊丹市
市民自治部 まちづくり室 まちづくり推進課